

OSAKA UNIVERSITY MINOH CAMPUS MASTER PLAN

大阪大学箕面キャンパスマスタープラン



大阪大学箕面校区校园总平面图  
 오사카대학교 미노캠퍼스 마스터 플랜  
 ОСАКАГИЙН ИХ СУРГУУЛИЙН МИНОО ДАХЬ САЛБАРЫН ЕРӨНХИЙ ТӨЛӨВЛӨГӨӨ  
 RENCANA INDUK KAMPUS MINOH UNIVERSITAS OSAKA  
 Saligang-Plano ng Unibersidad ng Osaka, Mino Kampus  
 หลักการ วิทยาเขตมิโน มหาวิทยาลัยโอซากา  
 QUY HOẠCH TỔNG THỂ CƠ SỞ MINO ĐẠI HỌC OSAKA  
 ဧည့်ဆာကာတက္ကသိုလ်မိနိုးနဲ့နယ်မြေအဓိကစီမံကိန်း  
 ओसाका विश्वविद्यालय मिनो परिसर मास्टर प्लान  
 جامعه اوساكا كے مینو کیمپس کا ماسٹر پلان  
 الرسم التخطيطي لحرم جامعة أوساكا في مينو  
 برنامه جامع محوطه مینو دانشگاه اوساكا  
 OSAKA Üniversitesi'nin Minoh Kampusu'ndaki Ana Planı  
 Mpango Mkuu wa Kampasi ya Minoh, Chuo Kikuu cha Osaka  
 Генеральный План Кампуса Миноо Университета Осака  
 Ószakai Egyetem Minoo kampuszának a fejlesztési terve  
 OSAKA UNIVERSITET MINOO CAMPUS MASTERPLAN  
 OSAKA UNIVERSITET MINOO CAMPUS MASTERPLAN  
 GRUNDPLANUNG MINOH CAMPUS UNIVERSITÄT OSAKA  
 OSAKA UNIVERSITY MINOH CAMPUS MASTER PLAN  
 PLAN DIRECTEUR DU CAMPUS DE MINOH DE L'UNIVERSITÉ D'OSAKA  
 Master Plan di campus dell'Università di Osaka  
 Plan Master de Campus de Minoo de la Universidad de Osaka  
 PLANO PILOTO DE CAMPUS DE MINOH DA UNIVERSIDADE DE OSAKA  
 大阪大学箕面キャンパスマスタープラン

- 中国語
- 朝鮮語
- モンゴル語
- インドネシア語
- フィリピン語
- タイ語
- ベトナム語
- ビルマ語
- ヒンディー語
- ウルドゥー語
- アラビア語
- ペルシア語
- トルコ語
- スワヒリ語
- ロシア語
- ハンガリー語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- ドイツ語
- 英語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- 日本語

2009.3.

◆ はじめに ～ 2008年度版の位置づけ ～	2
<hr/>	
◆ 1章 マスタープランとは	
1-1. マスタープランとは	3
1-2. 経緯および上位計画と全学キャンパスにおける位置づけ	4
1-3. 箕面キャンパスマスタープランのコンセプト	4
1-4. マスタープランの達成手法	5
1-5. マスタープランの作成手順	5
<hr/>	
◆ 2章 現状の分析と課題	
2-1. アンケート・ヒアリング・ワークショップ意見総括	6～8
2-2. 今あるキャンパスの活かすべき個性	9
2-3. 具体的問題点のまとめ	10
2-4. 地域における箕面キャンパスの位置づけについて	11
<hr/>	
◆ 3章 将来の全体空間骨格像	
3-1. 将来の全体空間骨格像	12
① 交流軸	② 交流広場
③ キャンパスの顔	④ 憩いの広場
⑤ 講義棟沿いの快適な移動動線	⑥ グランド
⑦ キャンパス南北軸（新北門）	⑧ 造成地の有効活用（新東門）
<hr/>	
◆ 4章 リーディングプロジェクト	
4-1. リーディングプロジェクトの設定と全体配置	13
① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化	14
② 新北門の整備	15
③ 北側12m道路周辺整備	15
④ 新東門・東側造成地・課外活動施設付近の整備	16
⑤ 研究講義棟東側通路のプロムナード化・グランドを囲むグリーンスケープ	17
⑥ バス停周辺の整備	17
4-2. 各リーディングプロジェクトの優先順位の考え方	18

◆ 5章 デザインガイドライン	
5-1. 建物のデザインガイドライン	19
5-1-1. 2005年版（豊中・吹田が主対象）の考え方と箕面地区における考え方	
5-1-2. 眺望や山並みの風景の尊重	
5-1-3. オープンスペースとの連続性周辺の中におけるアクセサビリティへの配慮	
5-1-4. 周辺住宅地への配慮	
5-2. オープンスペースのデザインガイドライン	20
5-2-1. 2005年版（豊中・吹田が主対象）の考え方と箕面地区における考え方	
5-2-2. 地形に配慮したデザイン	
5-2-3. 眺望に配慮したデザイン	
5-2-4. 街路ごとの個性化	
5-3. 緑のデザインガイドライン	21
<hr/>	
◆ 6章 アクションプラン（ソフトウェア的手法）	
6-1. 2005年版（豊中・吹田が主対象）で示されたメニュー	22
6-2. 箕面地区での経緯と実績	22
6-3. 箕面地区におけるアクションプランの提案	23
<hr/>	
◆ 7章 今後の課題	24
7-1. 全学的長期方針の中での箕面キャンパスの位置づけとの整合	
7-2. 教育カリキュラム等の諸課題との整合	
7-3. 緑のフレームワークプランについて	
7-4. バリアフリー・サインのフレームワークプランについて	

## はじめに

## ◆ はじめに ～ 2008年度版の位置づけ ～

平成19年10月に大阪外国語大学は大阪大学と統合し、その校地は大阪大学箕面キャンパスとなった。箕面キャンパスは平成20年5月現在、敷地面積140,600㎡、建物の延床面積62,323㎡（建ぺい率12.0%、容積率44.0%）・学生教職員数約4,000人を有し、大阪大学の3大キャンパスの一角を占めている。

## [参考]

豊中キャンパス：敷地439,156㎡、建物延床面積242,296㎡（建ぺい15.3%、容積55.3%）、学生教職員数約12,000人

吹田キャンパス：敷地996,659㎡、建物延床面積606,876㎡（建ぺい18.0%、容積60.9%）、学生教職員数約17,000人

大阪大学は平成17年（2005年）にキャンパスマスタープランを策定しているが、この時点では豊中キャンパスと吹田キャンパスがその対象であった。箕面キャンパスでは旧外大時代に施設整備の中・長期計画が立てられているが、キャンパス全体の理想像を意識してつくられたものではなかった。キャンパスを魅力あるものにしてゆくためには、空間の全体像をイメージしたキャンパスマスタープランが是非とも必要である。また箕面キャンパスには地域との交流をはじめとする、長年にわたってつちかわれてきた豊かな文化があり、ぜひともこれを守り育ててゆく必要がある。

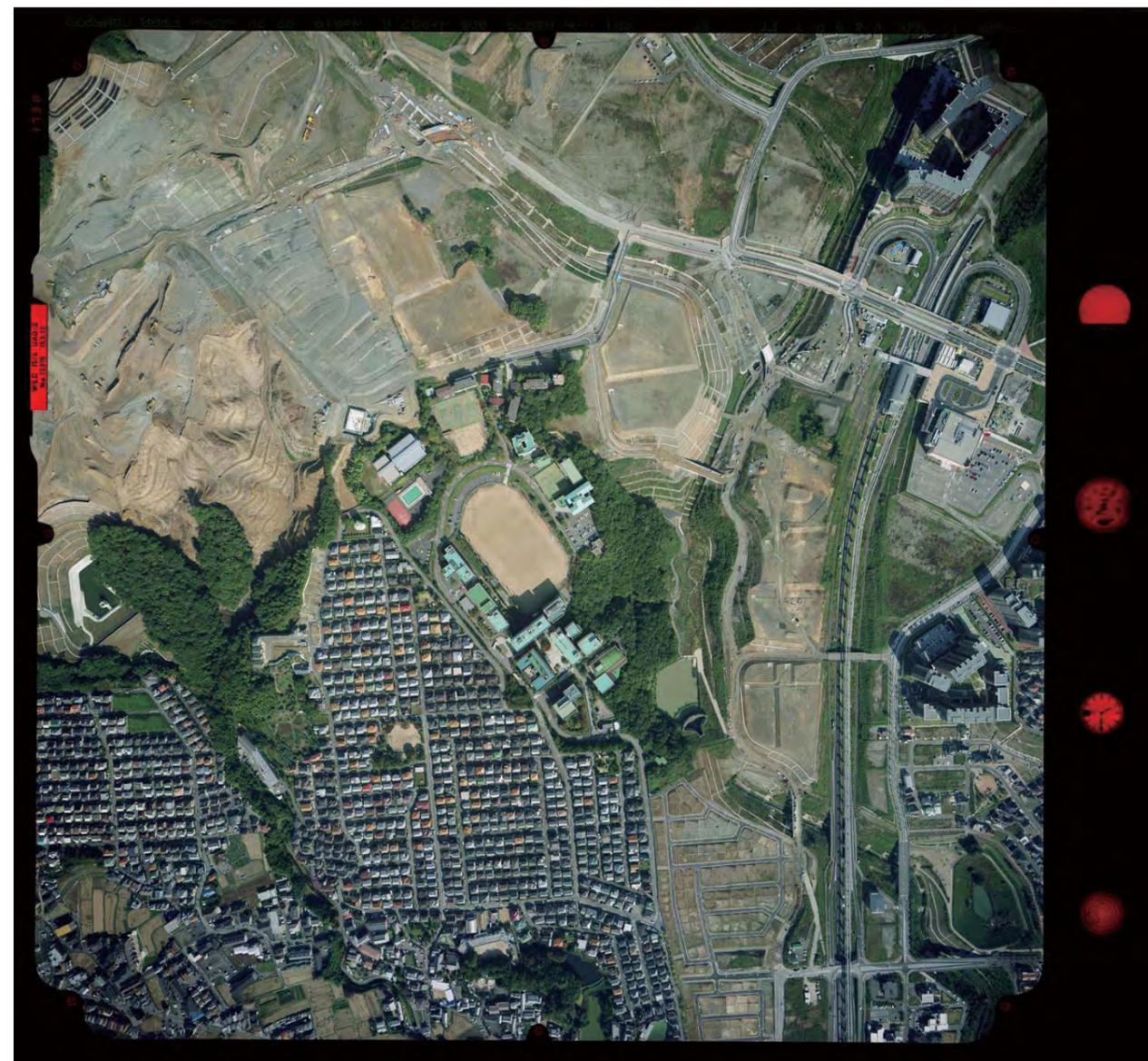
一方で、統合によって大阪大学全体として箕面キャンパスをどのように活かしていくか、ということが今、問われている。本来箕面キャンパスのマスタープラン策定には、その上位にあるべき、大学としての箕面キャンパスの活用方針の設定が望まれるところである。しかしこの上位方針の策定には相当の全学的検討や調整が必要であると考えられ、ハードウェアの方針たるマスタープランも、この上位方針をただ待っているわけにはいかない。

またキャンパスマスタープランにおいては、ソフトウェアとは切り離して、空間の豊かさや使いやすさや、あるいは安全性などの面から検討できる部分も多々ある。

そこで本マスタープラン（2008年度版）は、大学としての箕面キャンパスの活用方針については保留した暫定版として策定する。これら保留事項については「7章. 今後の課題」としてまとめる。

上位方針の相当大きな変更（例えば大規模な部局移転など）が無い限りは、本マスタープランはほとんどの部分が有効に機能するはずである。また相当な変更があったとしても、空間骨格やデザインガイドラインの大部分は有効であると考えられる。

以上をもって2008年度版を位置づける。



平成20年8月撮影。



南東上空からの見下ろし

南南西上空からの見下ろし

# 1章 マスタープランとは

## ◆ 1-1. マスタープランとは

### 1-1-1. キャンパスマスタープランの必要性

#### ◇ 旧・外大キャンパスの魅力と課題

箕面キャンパスは、いたるところで大阪の市街地や山地側への眺望が開けるとともに、大阪外国語大学時代の様々な出来事や記憶の風景をキャンパスに刻み込んできた。山並みや街並みを背景とするシーンの連続こそ、このキャンパスが育んできた魅力であろう。

一方、豊かな自然環境に近接しながら、キャンパスに来てみると、意外に緑は少なく、擁壁が目につく。また、南側校舎群と、北側の寮や体育施設のゾーンとの関係が分断されており、解決すべき課題も山積している。

#### ◇ 箕面キャンパスマスタープランの役割

キャンパスを持続的に育てていくためには、以上の魅力や課題を深く理解し、大学と地域の人々の間に共有化していく必要がある。将来、たった1つの建物や環境整備が、積み重ねてきた歴史を台無しにしてしまうことがあり得るからである。

キャンパスにこれから継承していくもの、改善していくべきものを明確にし、後世に伝えていくために、2005年度に「大阪大学キャンパスマスタープラン」が策定された。箕面キャンパスにも、この理念が受け継がれる。

「箕面キャンパスマスタープラン」の役割は、平成17年度版の時点から熟成された理念を「加筆」・「再編集」とともに、箕面キャンパスの魅力と個性を伸長させることである。

#### ◇ 「フレームワークプラン」

このマスタープランには、「フレームワークプラン」のセンスをふんだんに取り入れる。フレームワークプランとは、米国の先進事例で見られる持続的なキャンパス計画のモデルであり、プラン自体のボリュームの大半はキャンパス環境の特性の読みとりに割かれる。一方、施設や環境整備に関しては、具体的な計画を規定するわけではなく、理念やデザインガイドラインのレベルに止めている。

例えば、永久に残す広場や水面を「定義」し、そこに面する建物については、周囲の環境の文脈を生かしながら建物の向きや低層部の開放性に配慮するといった主旨のデザインガイドラインを定めていく。つまり、具体的なデザインを規定しないため、何十年経ってもデザインの陳腐化の心配はなく、理解力とデザイン力に優れた担当者が集まれば、デザインガイドラインの下で全体としての調和を取りつつ、各時代の最善のデザインを採用することができる。

### 1-1-2. 大阪大学のマスタープランの考え方の特長

変わらない（変わりにくい）部分を明確にし、将来、建物が更新されても、キャンパスの個性が継承されるようなプランとする。また、理念が人から人へと伝えられながら、「進化」するしくみをつくっていく。そのために、以下の特長をもつ。

#### ◇ 「環境資源」と「環境改善の可能性」の分析

- ・キャンパスの魅力や個性が生まれているしくみの理解 … 広場、建物、風景、生活、歴史。
- ・伸ばすべきところ、改善すべきところの理解。

#### ◇ 「骨格」と「場所」の定義

- ・キャンパスのイメージの「骨格」… 印象に残るキャンパスの「核」「軸線」「つながり」。
- ・残すべき場所、建物を建てない場所、人の出会いが生まれる場所、通り景観をつくる場所などを定義する。

#### ◇ デザインガイドライン

- ・オープンスペース、建物、看板、屋外家具などのデザインの「考え方」や「決め方」。
- 例えば、広場や通りに向ける建物の「顔」や「足下まわり」の開放性。
- ・施設や環境整備に関して具体的な計画を規定せず、考え方のレベルに止める。  
(その都度、キャンパスの文脈を理解し、最善の人による最善の工夫)  
… これが過去から将来につながるキャンパスの歴史をつくっていく。

#### ◇ 「進化」・「熟成」するもの

- ・時代が進めばデザイン的な対応の仕方・考え方・技術も常に進化する。  
… キャンパスにおいても大きな整備から小さな改善まで、様々な創意工夫を積み上げていくことでマスタープランに足りないものを加筆していく。
- ・市民や学生・教職員の「参加」により、策定時には気づかない大切なアイデアを得る。

#### ◇ 理念と経験を伝えていく「よりどころ」

- ・デザインの感性を磨いてきた人・磨こうとする人、キャンパスの環境を考えてきた人・考えていく人が集まる場、その経験を継承していく「場」とする。



[参考]オックスフォード大学（都市形成型）

700年以上街に蓄積されてきた、デザインに対する人々の共通理解が「ガイドライン」となっている。

写真のように、モダンな建物は街区の内側に建てられるため、メインストリートの景観は継承されやすい。

[参考]イェール大学（キャンパス開発型）

フレームワークプランを基に、デザインに対する共通理解を蓄積し「ガイドライン」を熟成させていく。上図は「ランドスケープのフレームワーク」と、それにより守られる広場。

◆ 1-2. 経緯および上位計画と全学キャンパスにおける位置づけ

1-2-1. これまでのキャンパス計画指針に関する経緯と関連

A. 箕面キャンパスにおける新規策定

旧外大時における環境整備計画を再評価しつつ、箕面キャンパス・マスタープランに再編していくが、大筋の方針は2005年版マスタープラン（豊中・吹田が対象。以下、2005年版とよぶ）を継承し共通のものとする。

箕面キャンパスマスタープランでは各章・節の冒頭に、必要に応じて2005年版を参照・再掲しながら、箕面キャンパス独自のものとして必要な部分を中心に記述してゆく。

また2007年3月策定の「緑のフレームワークプラン」および2008年3月策定の「バリアフリー・サインのフレームワークプラン」に関する部分についても、本書において必要に応じて、引用しながら記述してゆく。

B. 従来の阪大キャンパスマスタープランの熟成

2005年版マスタープラン（豊中・吹田が対象）は策定後3年以上が経過しており、その間に生まれた理念・考え方などを含めて再編集する機会でもあるので、これを意識した検討を行う。

1-2-2. 上位計画と全学における位置づけ

A. 「大阪大学の世紀（グラウンドプラン）」（平成20年11月25日決定）との整合をはかる。

3つの使命につづく9箇条の「取り組みの大きな方向性」の中では下記2点が示されている。

- 6. 旧大阪外国語大学との統合の成果を生かして … 中略 … 国際感覚を備えた職員の養成をはじめとする学内の国際化、海外からの研究者・留学生の研究・修学・生活のための環境整備 … 後略
- 7. キャンパスを<多様性>と<持続可能性>のモデル空間として、また卒業後も思い出に残る心地よい空間として整備する。

また「大阪大学活動方針2008」（平成20年11月25日決定）においては6箇条の「取り組みの大きな方向性」の中の「6. 持続性と活力を生む大学運営」8大項目の中で以下が示されている。

(6) 地域との連携をめざすキャンパス整備

キャンパス整備本部を中心に、**全学的な視点から地域との連携や安全・環境に配慮したキャンパス整備**を実現し、「**キャンパスをタウンに**」というキャッチフレーズのもとで、世界トップクラスの大学にふさわしいキャンパスを構築する。

■長期的視野に立った全学的な施設マネジメント

- キャンパスマスタープランにもとづいて豊中・吹田・箕面の計画的なキャンパス整備を実現する。とくに箕面キャンパスについては、早急にマスタープランを作成する。… 中略 …
- 国の補助金による耐震改修・リニューアルと学内経費を用いた劣化建物の機能回復や**プリメンテナンス**による長期供用を組み合わせたトータルマネジメントによるキャンパス整備を推進する。… 中略 …
- 学生参加型のキャンパスデザイン**を、**授業支援**、**学生活動支援**も含め多面的に推進する。これらの活動を通じて、**魅力ある commonspace の実現**をめざす。
- 学内の**スペースマネジメント**を強化して、スペース利用効率の向上を図るとともに、**福利厚生施設の充実**を実現する。
- 環境に配慮**するとともに、**省エネルギー**を実現するためのキャンパス整備を推進する。

■地域と大学が相互に浸透するコミュニティキャンパスの形成

- 街づくりの支援**や地域医療の推進など、大阪大学の**教育研究を通じて地域の活性化**を図るとともに、**街としての文化性を備えた居住空間への変貌**を実現するための「**コミュニティキャンパスプラン**」を開発する。
- キャンパスエッジにおける整備**を推進し、**地域と大学が住環境像を共有するモデルプロジェクト**を展開する。… 後略

B. 「活発」な施設整備への対応

阪大は研究のアクティビティが活発であり、施設整備の動向を予想できない。したがって規模にかかわらず、全ての環境・施設整備を「マスタープラン」（特にそのデザインガイドライン）で導きながら、何十年かけてでも「骨格」と「場所」を守り育てていく必要がある。

◆ 1-3. 箕面キャンパスマスタープランのコンセプト

1-3-1. 全学共通のキャンパスマスタープランの目標・基本方針

2005年版で示された目標4項目および基本方針7項目は、箕面キャンパスにおいても全く同等に適用されるものである。以下にこれを抜粋する。

<目標>

- ・誇りと愛着が持てるキャンパス
- ・多様で豊かな交流が生まれるキャンパス
- ・地域社会や世界に開かれたキャンパス
- ・キャンパス間、周辺関連施設との連携を持ったキャンパス

<基本方針>

- ・資源・歴史を継承し育てる、個性ある環境づくり
- ・将来にわたり教育・研究が実効的に展開できる環境づくり
- ・学生・教職員が充実したキャンパスライフを展開できる環境作り
- ・アクセサビリティの高い交通と情報環境作り
- ・地域に貢献できるキャンパスづくり
- ・国際交流に貢献できる世界水準の教育・研究環境づくり
- ・地球環境に配慮したキャンパスづくり

1-3-2. 箕面キャンパスにおけるマスタープランのコンセプト（2008年度暫定版）

「はじめに」で述べたように本来的にコンセプト策定には、大学としての箕面地区全体の活用方針が先行することが望ましい。

しかし、現在のキャンパスが持っているポテンシャルや個性と、ヒアリングやアンケートで得られたキャンパスに関わる人々の期待、及び「大阪大学の世紀（グラウンドプラン）」を参照することにより仮のコンセプトを設定することは可能である。以下にコンセプトを示す。



◆ 1-4. マスタープランの達成手法

2005年版キャンパスマスター部分と同様の達成手法を基本とする。  
これらを下記に再掲（一部改変）する。

大学に通う全ての人が魅力を感じ、また地域の人々に愛されるキャンパスをつくるために、基本的な考え方と方策をまとめる

共用施設、共用空間に関する整備方針を示す。→ **キャンパスコモンの整備方針**

内容・構成

1) ゾーンおよび骨格・核の構成

- ① 一体として空間形成の方針を設定することが望ましいゾーンの構成
- ② キャンパスの顔を形成する軸となる空間 - メインストリート等
- ③ キャンパスのイメージの核・シンボルとなる空間 - 広場、モニュメント等
- ④ 賑わいと交流の核となる空間
- ⑤ 副次的ストリーートの良好な景観の形成

2) 自然を生かしたアメニティの形成

… 緑地、街路樹、沿道緑化、法面緑地等の適切な造成と維持・管理

3) 全ての人が安全に快適に移動できる環境の形成

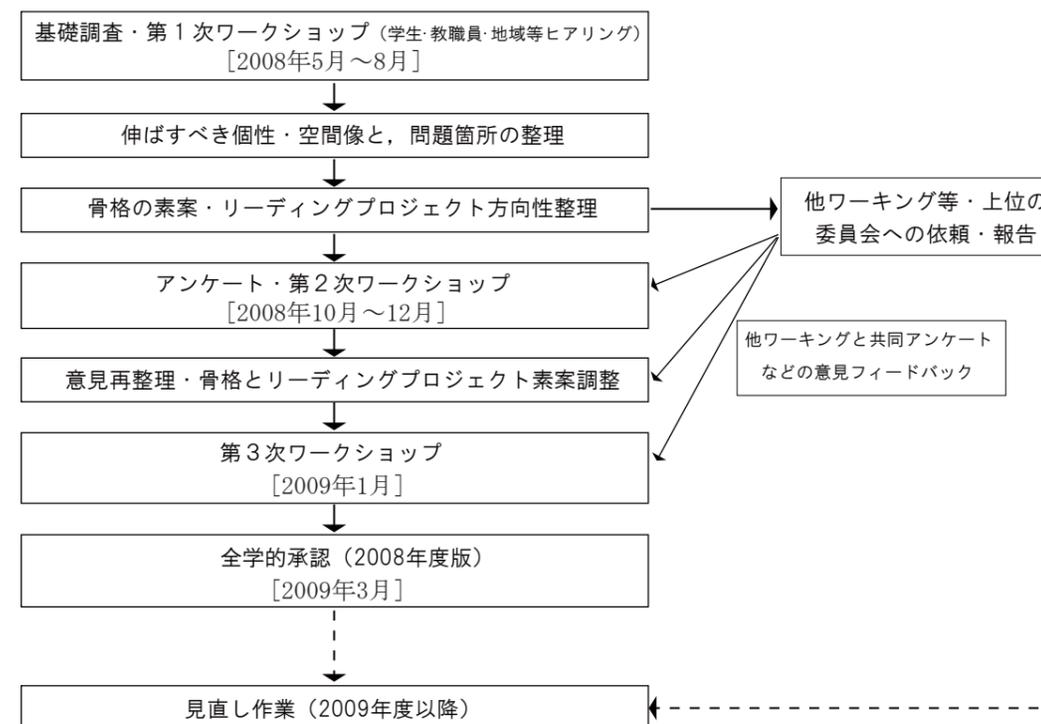
… 歩行者、自転車、自動車の環境

4) 達成手法

- ① リーディングプロジェクト（早期に整備が望まれるプロジェクト）  
重要なオープンスペース（広場）や門等の外部・共用空間は、優先度の高い計画対象として検討提案する
- ② デザインガイドライン（順次整備を進める際に守るべき環境整備の指針）
- ③ アクションプラン（美化活動などのソフトウェア的手法メニューの提案）

◆ 1-5. 箕面キャンパスマスタープランの作成手順

箕面キャンパスマスタープランの作成手順は、以下のとおりである。



## 2章 現状の分析と課題

### 2-1. アンケート・ヒアリング・ワークショップの意見総括

#### ◆ 2.1.1. 各調査の概要

キャンパスマスタープラン作成の参考にするために、下記の方法で各方面からの意見聴取を行った。

1. ヒアリング（学生・教職員・間谷地区住民・彩都地区住民 [2008年5月～8月]）  
… アンケート等詳細調査、各部整備案、コンセプトなどの方向性を得る
2. アンケート調査（学内向け・地域住民の方々向け [2008年10月～12月]）  
… 全体意見の趨勢を測り客観性をより高める、意外な意見を発掘する
3. 合同ワークショップ [2009年1月]  
… 調査結果とある程度具体的な案を示した上で、素案の妥当性を検証する

#### ◆ 2.1.2. ヒアリング調査のまとめ

全部で84項目に整理できる意見を得たが、この結果統合に起因する事項や地域連携に関する事項など、マスタープラン作成作業の枠を超える問題や課題が明らかとなった。

これらについては「7章 今後の課題」の中で整理しておく。

なおこれら意見の詳細については、下記のアンケート調査で得られた意見に包含されているためここでは割愛する。

#### ◆ 2.1.3. アンケート調査の概要

平成20年10月から11月（一部は12月14日まで）にかけてアンケート調査を行った。

調査は2004年に行ったもの（2005年マスタープランに反映）とほぼ同様の形式をとったが、異なる点は、①地域住民向けアンケートを学生教職員向けのものに分けた、②交通に関する設問を設けた、③2004年は着払い郵便ハガキで回収したが、今回はボックス回収、および間谷町自治会・コミュニティ彩都の協力を得たという3点である。

これはヒアリングにより、地域との連携がこのキャンパスの一つの特長であったこと、および交通問題が学生教職員に大きな関心を集めていることが垣間見えたことによる。以下に回答の概要を示す。

#### 設問1～4. 回答者属性について

上記①～③による属性の変化を除けば大きな特長はない。

教職員を中心に、主たる活動エリアが豊中と箕面にまたがっているとの回答が7%あった。

ほとんどの教員が言語文化研究科や文学研究科などに籍をおくためとみられる。

また箕面地区に拠点をおく教職員の割合が低いにも関わらず、今回アンケートでは12%の回収を得、教職員の関心が相対的に高いことが伺える。

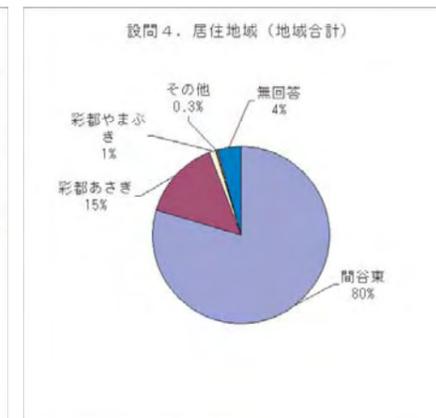
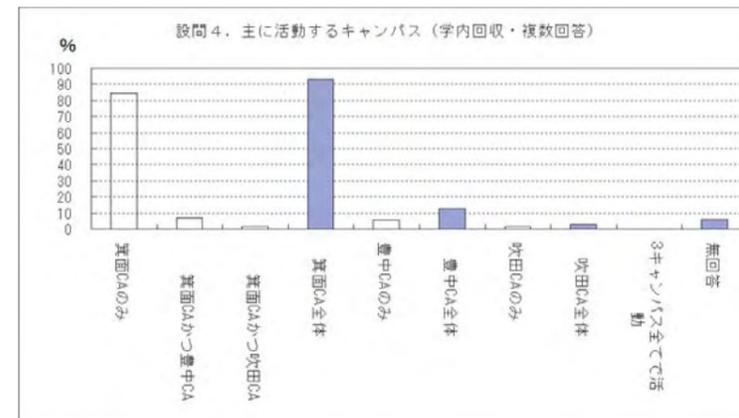
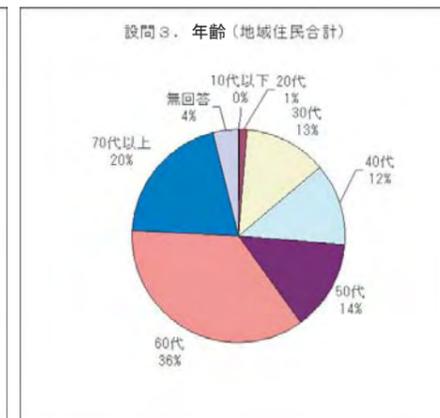
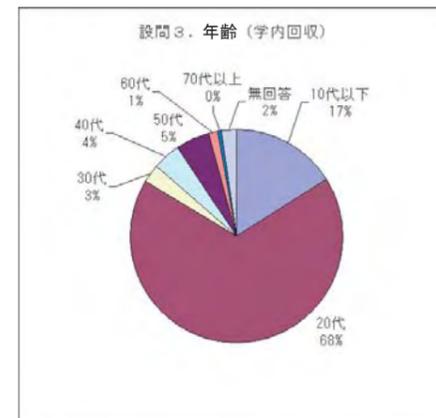
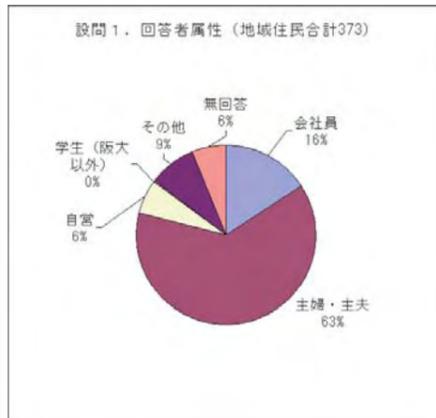
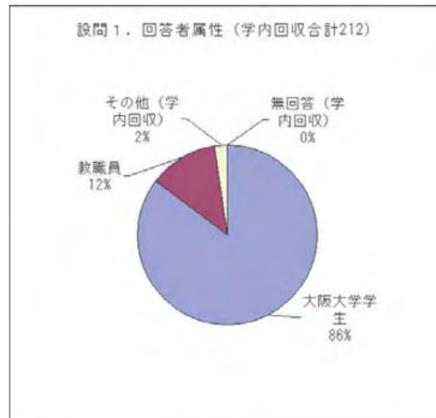
地域住民については、間谷地区は全て間谷東、彩都地区はほとんどが彩都あさぎ地区の回答である。

間谷東地区はキャンパス直近であり長年、祭などの様々な活動でお世話になったり、学生のマナーやバイク、自転車の問題でご迷惑をおかけしてきた経緯があり、キャンパスへの関心が高く、間谷ではこれを反映した極めて高い回収率（間谷世帯数約700に対し44%。ちなみに彩都は世帯数約3000に対して2%）を記録した。

性別は、学内回答者では男女比=1:2で、在籍者の比よりやや男性が多い。

地域住民の回答者でも男女比はほぼ1:2となった。

回答者平均年齢（例えば20代は25歳として計算）はそれぞれ学内26才・間谷58才・彩都60才であった。彩都はシニアクラブの協力による回答が多いため間谷よりやや高齢で分散が小さい。



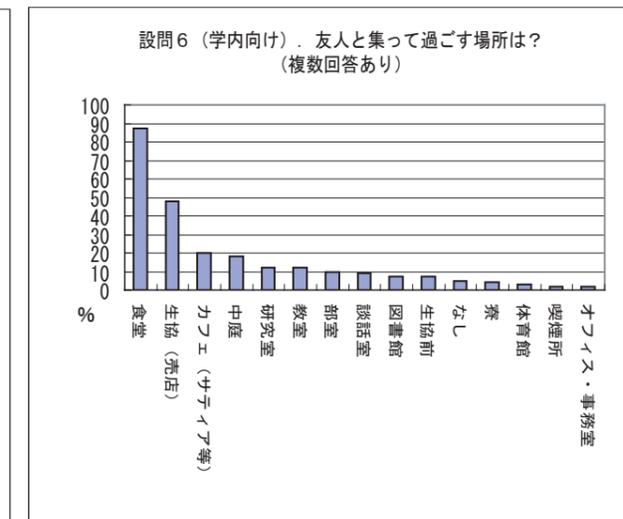
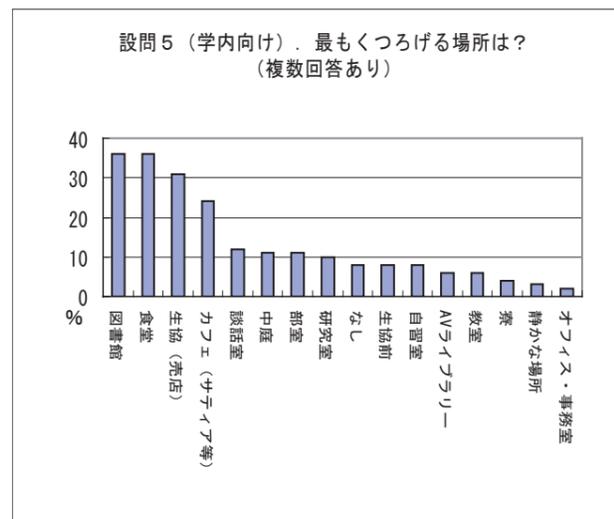
#### 学内向け設問5. 箕面キャンパスであなたが最もくつろげる場所はどこですか。

2004年調査（豊中・吹田）では職場（研究室等）＞食堂＞広場や部室、体育館等、という順だった。今回調査では、食堂・図書館＞生協等、という順序になっており、豊中や吹田に比べると職場（研究室等）や部室に閉じこもる傾向がやや少なく、食堂・図書館等共用スペースの人気の比較的高いことがわかる。なお以降の設問においても、回答傾向には回答者属性との見るべき明確な相関関係はなかった。

#### 学内向け設問6. 箕面キャンパスであなたが友人や同僚と集まって過ごす場所はどこですか。

前問同様の傾向が見られ、職場（研究室等）や部室などに閉じこもる傾向が少なく、食堂やカフェ（サティア）と中庭の人気の非常に高い。豊中・吹田ほど食堂等の箇所数が無いことも、かえって人気集中する要因とも見られる。

また、設問5・設問6ともに「生協前」という回答が少数であるがみられた（設問5:8票、設問6:7票）。両設問ともに、生協や図書館などの屋内空間の回答が多い中、屋外空間として生協前が重要な交流の場となっていることがうかがえる（参考：設問5：中庭11票、設問6：中庭18票）。



学内向け設問7. 箕面キャンパスでのあなたのお気に入りの場所・風景はどこですか。

眺望系(屋間または夜景)の回答が34%と極めて高い。風景よりも各個別の場所が挙げた2004年(豊中・吹田)に比べて、眺望の回答が際立っていること、および夜景を含む回答が18%と非常に顕著である。

場所要素ではもちろん中庭・大階段(通称:墓石階段)が支配的であるが、それ以外の様々な場所からの眺望に関する記述があることも見逃せない。南側の大阪中心部方向への眺望だけでなく、山の稜線の記述があったことも興味深い。

地域住民向け設問5. これまでに利用したことのある箕面キャンパス内の施設があれば教えてください。

地域住民向け設問6. 上記設問での利用頻度を教えてください。

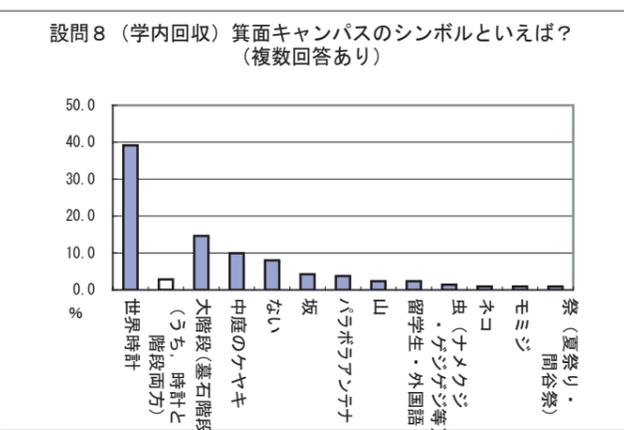
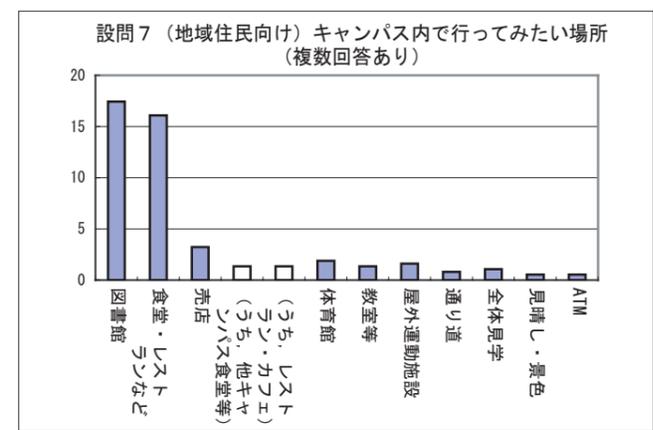
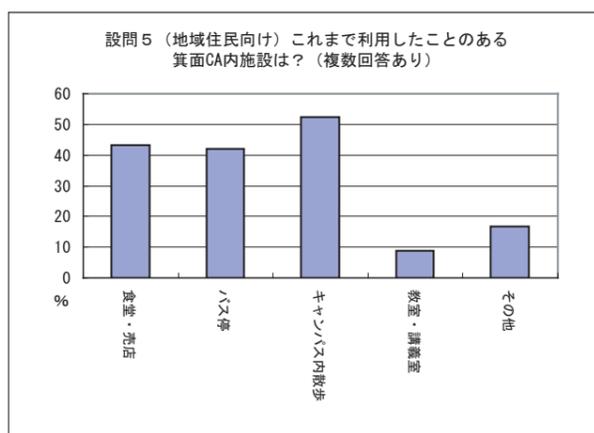
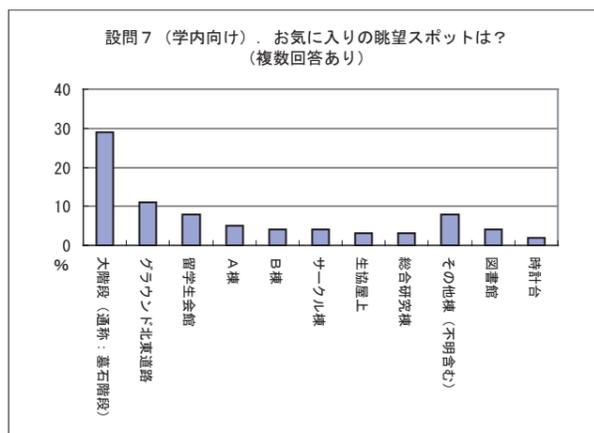
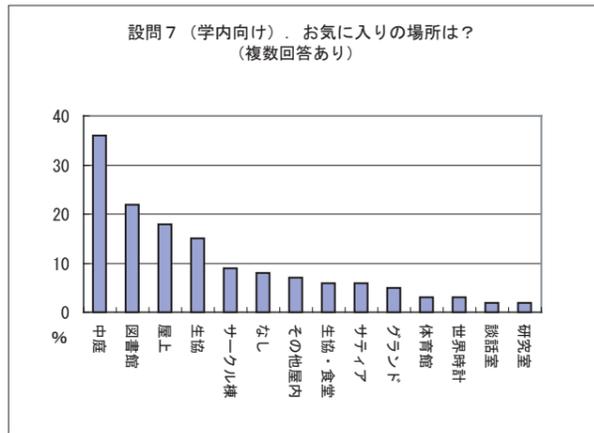
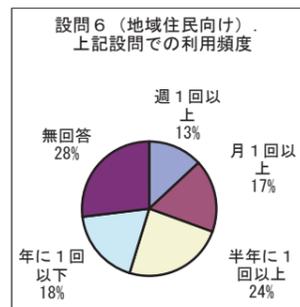
バス停の48%、図書館の16%、ATMの14%、外大祭・間谷祭の12%が意外に多かった。また散歩道としてよく利用されている(58%)ことがわかる。ただし頻度は高くはなく、週1回以上は13%、月1回以上と併せても31%程度である。

地域住民向け設問7. キャンパス内で行ってみたい場所がありますか(箕面キャンパス以外でも可)。

図書館、食堂(レストラン・カフェ)、売店、体育館・教室・グラウンド等という順だが、食堂類はその呼称に「レストラン」・「カフェ」が多いことから「おしゃれ」で「おいしい」グレードのやや高いものが求められていることがわかる。また食堂類やキャンパス見学において他キャンパス・理工系も見てみたいという意見がある。

学内外共通設問8. 箕面キャンパスのシンボルといえば何をイメージしますか。

学内向けでは世界時計が圧倒的かつ中庭・大階段も多く、これらが一体的に、イメージの中心を形成していることがわかる。また中庭という回答のほとんどは、ケヤキ大樹と一体回答となっていた。



しかし「なし」と記入した積極的無回答も14票みられた(有効回答190票のうち)。面白いのは「パラボラアンテナ」「留学生」「ネコ(てんてん)」。

地域住民向け設問10. 今までに箕面キャンパス(旧外大)学生・教職員と協同でおこなった活動があれば教えてください。

間谷地区の回答者の23%が何らかの活動を行っている。また内容も祭り・イベントからスポーツ・講演まで多岐にわたっている。彩都では開発からの日が浅いため有効回答は得られなかった。

地域住民向け設問11. 今後、箕面キャンパス学生・教職員と協同で行いたい活動があれば具体的にお教え下さい。

イベントや交流は、祭り、子供参加、スポーツ、留学生交流に分類できる。ほかに公開講座や勉強会も要望が強いが、これらは設問10.の実績では回答が少なかったものであり、今後の方向性として重要なものであることがわかる。地域の清掃活動、防犯パトロールがあったことも興味深い。これらはアクションプランのなかで重要な要素となり得る。

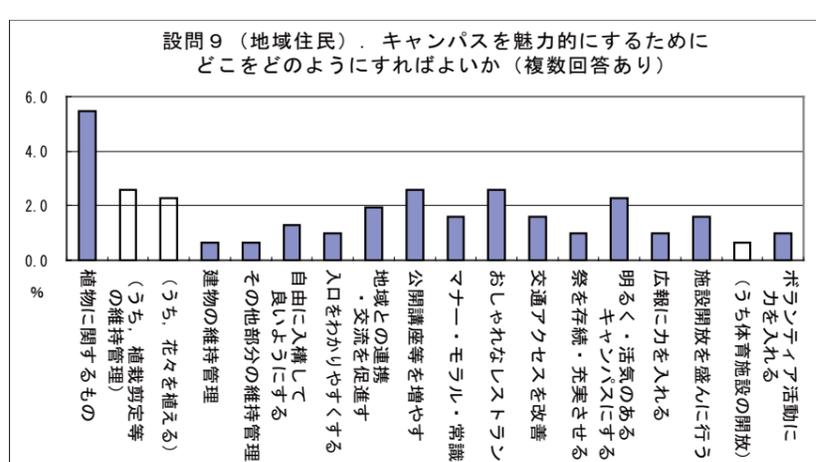
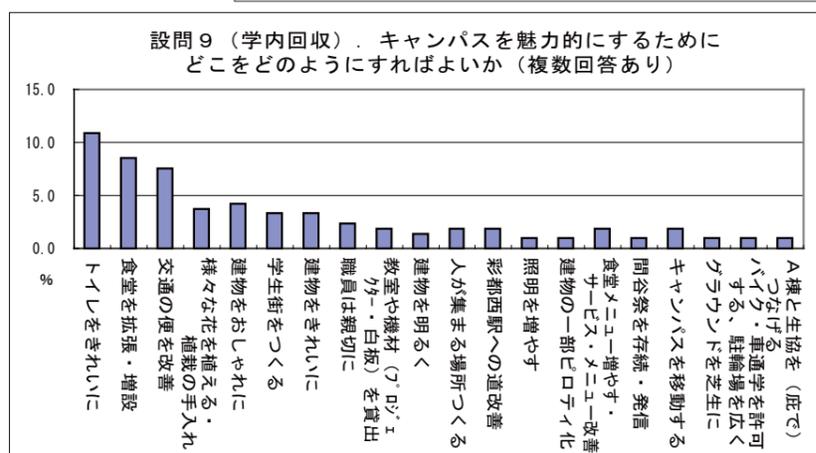
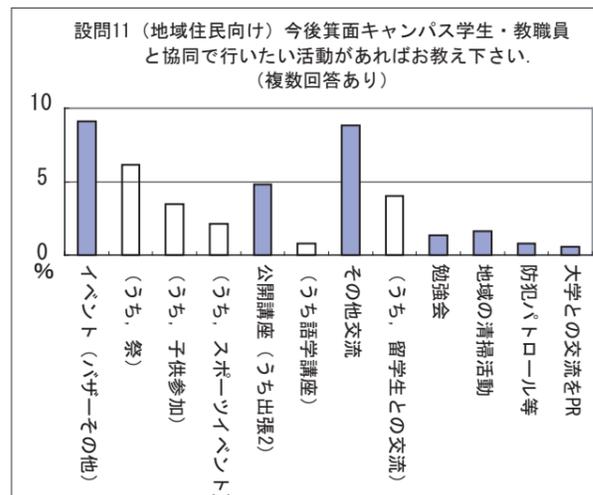
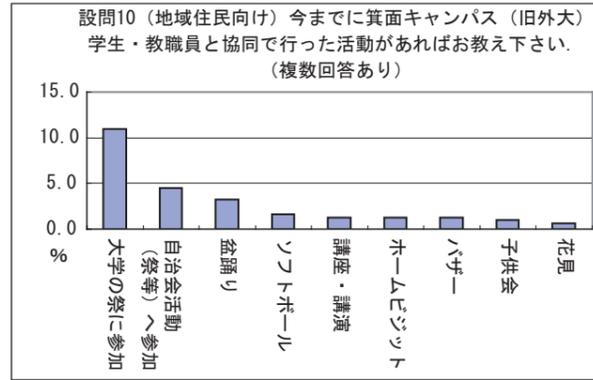
学内外共通設問9. 「箕面キャンパスを魅力的にするためのアイデアをお寄せください」

「トイレをきれいに」に代表されるように維持管理に関するもの、および制度・運営・ソフトウェアに関するものが非常に多いが、建物のデザインや空間そのものへの言及は少なかった。

ハード面へ特化した回答は、「食堂を拡張・増設」「花を植える」「建物をおしゃれに」が見られる程度である。

しかし本設問では次節で述べるように、少数回答のなかにマスタープラン作成への示唆に富む意見がいくつか得られた。

一方、地域住民の回答では、樹木剪定や建物の維持管理、出入りしやすい雰囲気、公開講座や交流への期待が高い。



学内向け設問10. = 地域住民向け設問12.

「箕面キャンパスについて日頃感じていることについて具体的に書いてください」

交通が不便、トイレが汚い、閑散とした雰囲気、生活の不便、と続くが、ポジティブな回答（主に「静か」「落ち着く」）も多いことが特徴的である。これらは全体イメージコンセプトへの援用が可能と思われる。

その他おおまかには「キャンパスへの立入・防犯」「学生活動の支援」「箕面キャンパスのアイデンティティ」といった分類も可能であり、これらもアクションプランへの援用が可能である。

地域住民の回答では「マナーが悪い（交通・深夜の大声）」が多数を占めているが、こちらもポジティブな回答（以前より改善された、学生がまじめなど）もある。改善の努力が実っている面があると思われるが、なお一層の工夫が必要ということであろう。

（ヒアリングにおいても「クレーム中心のつきあいから交流・共生へ」という意見があった）

その他、施設開放への期待などが寄せられている。

学内向け設問11. = 地域住民向け設問13.

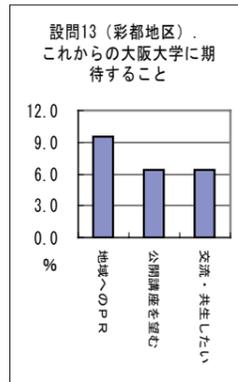
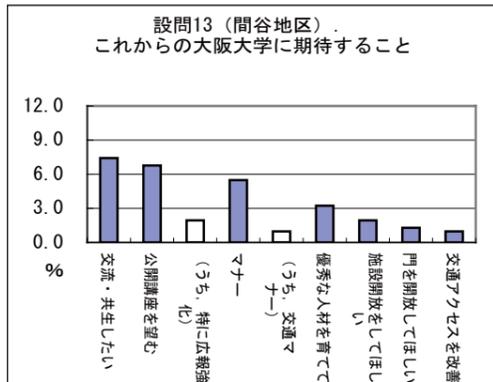
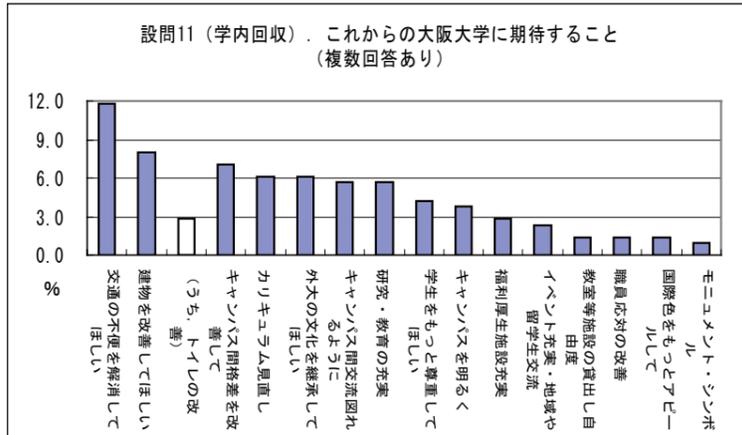
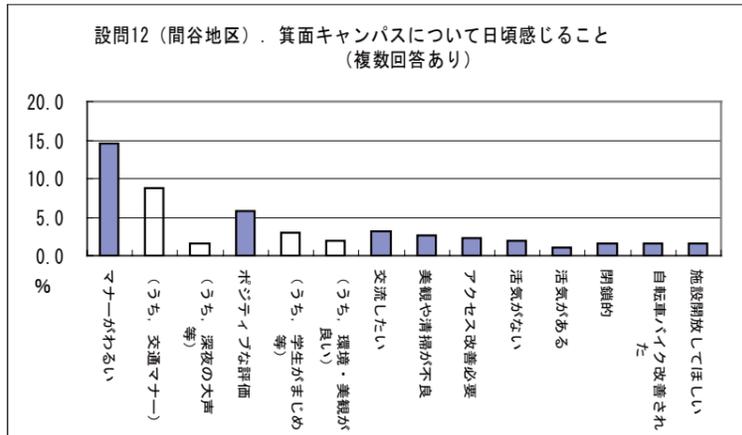
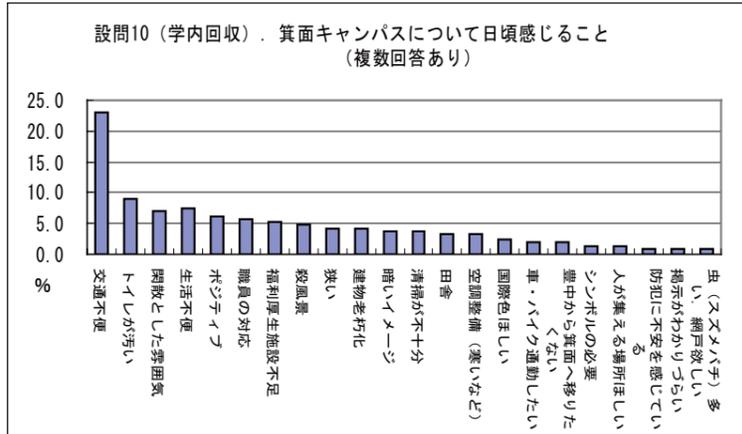
「これからの大阪大学に期待することがあればお書きください」

学内回収分は、大まかに下記の8グループに分けることができる。ほぼ前述のヒアリングで述べられた意見と重複しており、7章にまとめた課題にて整理している内容である。

- A. 旧外大文化や統合に関するもの
- B. 研究・教育
- C. 建物イメージ・キャンパス骨格
- D. 生活の利便性向上など
- E. 学部間の交流など
- F. 学生生活支援など
- G. その他
- H. キャンパス間格差の改善

地域住民の回答としては、交流・共生への期待、マナー向上、公開講座・施設開放などが上げられている。また世界レベルの研究や優秀な人材の育成なども述べられている。

彩都では彩都の活性化につながる貢献・交流が期待されている。



◆ 2.1.4. 意見聴取のまとめとマスタープランへの援用

A. キャンパスのアイデンティティ・個性・シンボル

アンケートの学内向け設問5～8において、キャンパスのイメージに関しては、中庭・大階段（通称：墓石階段）に関するものが支配的であった。この部分がキャンパス内において極めて重要なイメージ要素として機能していることが、改めて確認できた。

また、眺望、特に夜景に関する記述が非常に多く、これを活かした計画が今後も必要であることがわかった。

B. 現在のキャンパスのよいところ

特にアンケートの学内向け設問10. などにより「まとまりあるコンパクトなキャンパス」「地域との交流が盛ん」「眺望のよい地形」「緑が豊か」といった良いイメージがあることがわかった。

Aとも合わせ、次頁にてこれらをまとめておく。

C. 維持管理、特にプリメンテナンスの重要性

これはアンケートとヒアリング両方から得られ、2004年調査でも同様に得られた結論であるが、今回調査においても、維持管理に関する回答は大きなウェイトを占めており、改めて維持管理の重要性が確認できる。

D. マスタープラン実現手法へのヒント

特に学内外共通設問9において、重要な示唆に富む少数回答がいくつか見られた。下記に実現が必要または可能（比較的容易）かつ効果的と思われるものを列記する。

- ・A棟と福利棟を底でつなげる。 → リーディングプロジェクトで参考にする
- ・B棟とグラウンドの間を整備する。 → //
- ・ピロティをつくる。 → //
- ・外灯を増やしてキャンパス内を明るくする。 → デザインガイドラインで参考にする
- ・自習室を増やす。 → //
- ・中庭を許可制で飾り付けできるようにする。 → アクションプランで参考にする
- ・間谷祭を地域に発信する・旧外大祭存続。 → //
- ・植栽の整備・充実 → デザインガイドラインで参考にする

E. 全体イメージコンセプトへのヒント

少数回答でも「暗い・殺風景・色味がない」に類する意見が見られるが、ポジティブな回答「静かで落ち着く」と組み合わせると、「明るく、かつ静かで、活気がある」というイメージコンセプトを導き出すことが可能と考えられる。

コンパクトなキャンパス・眺望の良い地形・緑が豊かという条件とも非常に良く合うと思われる。これらは、1章のイメージコンセプトにて参考にする。

F. 交通アクセス改善への手掛かり

今回アンケートでは下記項目についても回答を得ている。結果は割愛するが、「7章. 今後の課題」で記述したとおり、交通の利便性改善の検討に用いるものとする。

- (学内外共通) 設問12. 新しいバスルートが出来たと仮定した場合、通学・通勤に利用しますか。
- (学内外共通) 設問13. モノレールの運賃が安くなると仮定した場合、通勤通学に利用しますか。
- (学内向け) 設問14. あなたが現在箕面キャンパスに来るのに利用している交通機関は。
- (学内向け) 設問15. その他通勤・通学に関して日頃感じていることについて。
- (学内向け) 設問16. あなたの自宅最寄り駅を教えてください。
- (地域住民向) 設問16. あなたが自宅最寄りとして利用している交通機関はどれですか。

G. 施設整備に関係の深い具体的な問題点も様々明らかとなった

これらについては、2-3にてまとめる。

## 2-2. 今あるキャンパスの活かすべき個性

本節では、アンケート調査やヒアリングなどで得られたキャンパスのポテンシャルのうち、眺望と緑の資源に関するものをまとめている。これらは主に5章 デザインガイドラインにおいて、特に守り育てるべき個性としてとりあつかう。



1. 研究棟B棟屋上から中庭の先に望む眺望

1. 同夕景



2. 研究棟B棟屋上から運動場越しに望む山並 3. 大階段を見下した先にみえる市街地の灯り。 4. 駐車場から雑木林越しに望む眺望。



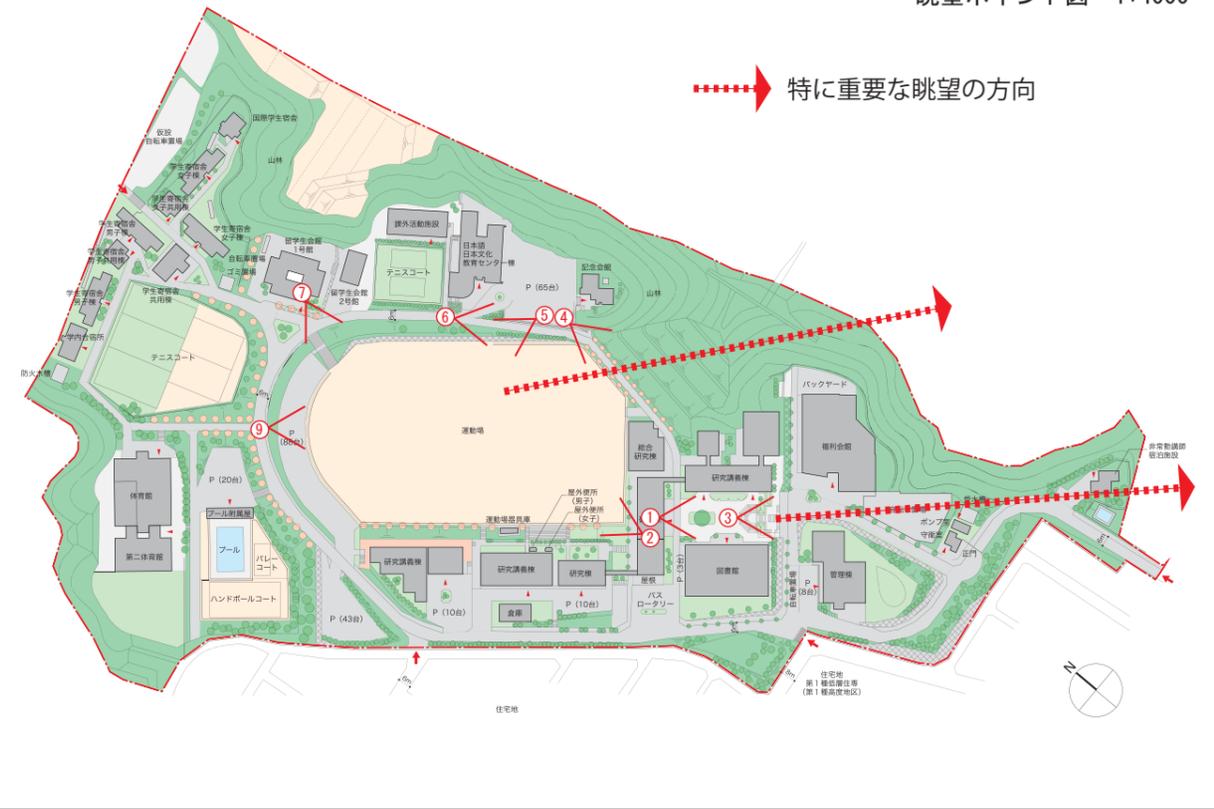
5. 駐車場から運動場越しに望む山並み。 6. 坂道を見下ろした雑木林越しの眺望。 7. 留学生会館1号館の屋上からみた千里方向



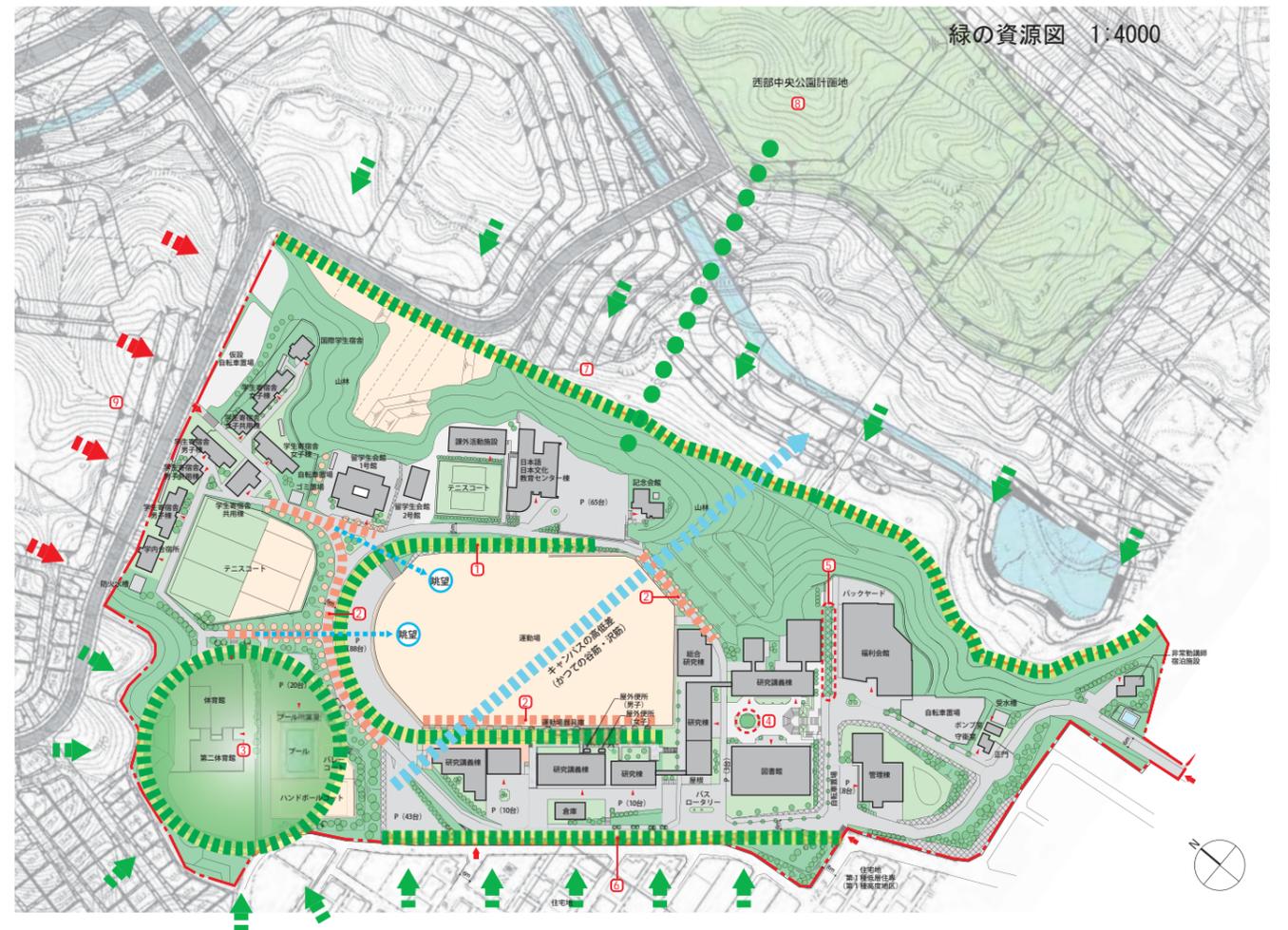
8. 北門から彩都方向を見下ろした眺望

9. テニスコート西側道路から南に広がる眺望。

眺望ポイント図 1:4000



緑の資源図 1:4000



### 2-3. 具体的問題点のまとめ

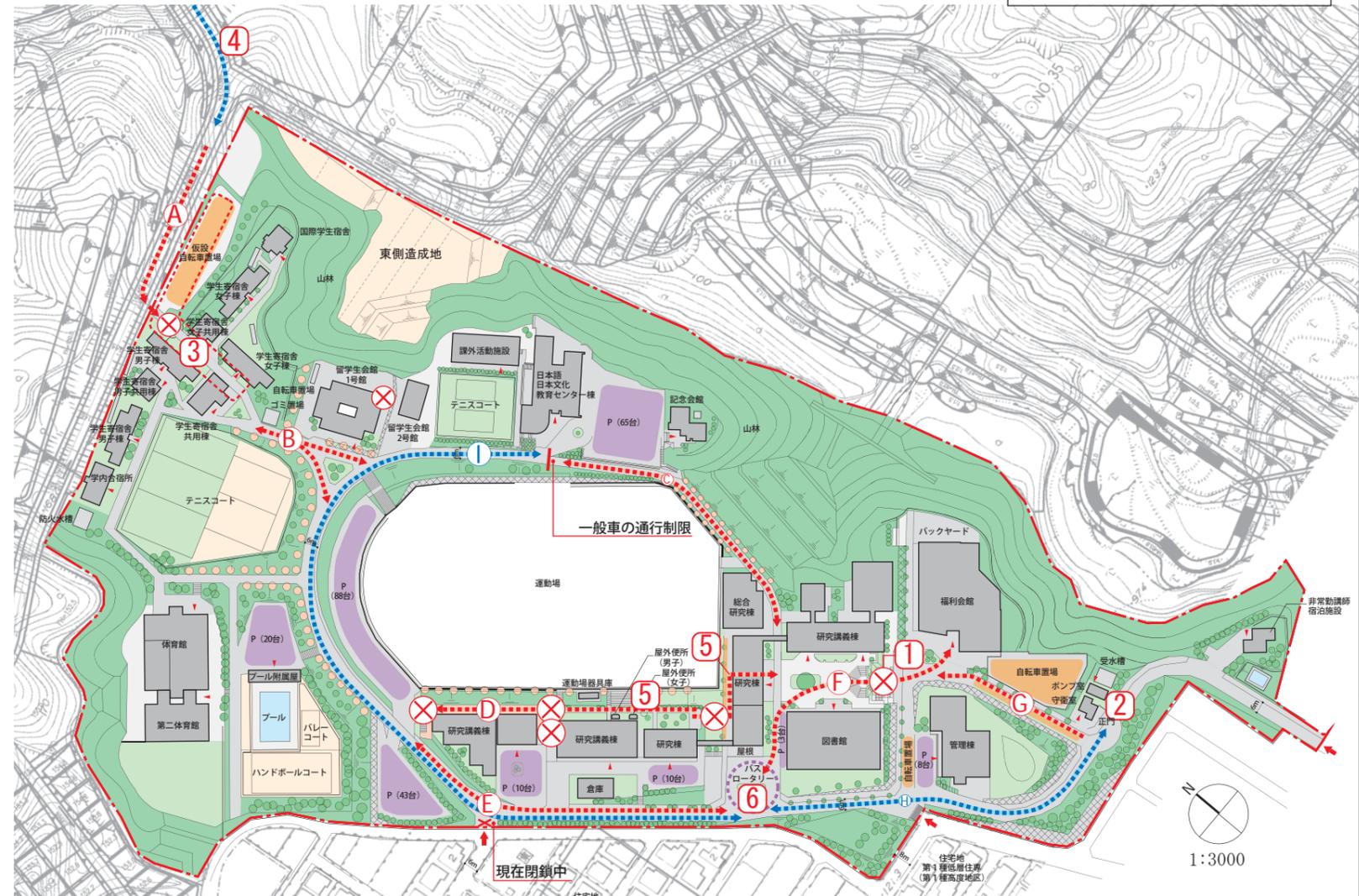
2.1.4で得られた意見のうち、施設整備・ハードウェアにかかわるものをまとめたのが右下図である。

1. 日常の主要動線に急な大階段がある（通称、墓石階段）
2. 車両入構口が南側の1ヶ所しかない
  - ・災害時の車両入構、及びバス転回の問題
3. 北門（現況）周辺の整備が中途半端
  - ・バリアフリー上の問題がある
  - ・大学の顔として貧相
  - ・砂利敷きの暫定駐輪場はタイヤを取られ危険
  - ・寮のプライバシー確保の上で問題がある
4. 北門から彩都西駅への動線が遠回り
  - ・彩都西駅や西部中央公園（整備予定）とのつながり悪い
  - ・東側造成地の利用方針が不明確
5. 日常の主要動線が裏道のような通路（B棟裏周辺）
  - ・グラウンドの広がりを活かせていない
6. バス待ちスペースの不足
  - ・混雑時は行列がテントからはみ出す（雨天時に問題→テント拡張は早急に対処する必要あり）
  - ・バスの待機スペースも不足している。
7. その他、キャンパス全体共通の問題
  - ・魅力的な学生が集うオープンスペースが不足
  - ・通学経路の多様化への対応が必要
  - ・盗難などセキュリティ上の不安がある
  - ・施設や屋外空間の維持管理が不十分
8. その他具体的ではあるが、個別に処理すべき問題点
  - ・大階段（通称、墓石階段）が雨天時に滑りやすい
  - ・南西門が、大学の顔としては貧弱である
  - ・西門が閉鎖されている（門扉も劣化している）

**凡例**

- 歩行者動線
- 自動車動線
- A モノレール駅からの主動線
- B 駅、寮からの主動線
- C 授業移動の主動線
- D 授業移動の副動線
- 体育関係の動線
- E 体育施設への動線
- F バス停↔福利施設の主動線
- G 自転車・歩行通学動線
- H バス動線
- I 駐車場への主要動線

- 駐車場
- 駐輪場
- バイク置場
- ⊗ 主要な動線上にある段差



## 2-4. 地域の中における箕面キャンパスの位置づけについて

### ◆ひとつの「街」としての発展・成熟

間谷地区や周辺の旧集落には長年にわたり培われてきたコミュニティや文化がある。彩都は生まれたばかりの街であり、今後、学術研究機能や新しいコミュニティが発展してゆく。さらに、間谷地区との間には、旧大阪外国語大学時代から築かれてきた交流がある。

これらの資源を生かしながら、間谷地区、箕面キャンパス、彩都をひとつの「街」として結びつけることにより、過去から将来へと歴史を守り育て、共栄する魅力的な地域となる展望を開いていく。

### ◆地域の骨格の結節として

箕面キャンパスは、間谷と彩都を結びつける結節点に位置する。現在も北門と南西門を通じて両者を結びつけているが、キャンパス内の通路は歩行者系の街路としての整備が不十分であり、これに接続する彩都側の幹線道路の歩行環境も現状では未整備である。

東門ならびに新北門の整備と西門の開放が実現すれば、「キャンパスループ」が地域全体の歩行者系ネットワークの結節として重要な役割を担うことができる。

### ◆地域の歩行者系ネットワークの成熟に向けて

間谷地区には間谷西公園、彩都にはあさぎ里山公園があり、どちらも子どもや家族連れ、散策の人々によりよく利用されている。しかし子ども達の環境としても、散策ルートとしても単一的で選択肢が少ない面もある。

箕面キャンパスを新たな「公園」と位置づけ、歩行者系街路で結んでいくことができれば、間谷西公園、あさぎ里山公園、彩都西駅と東門の間に整備予定の西部中央公園の3つの公園と、さらに箕面キャンパスとを核とした広域的なネットワークへと広げていくことができる。また、周辺には、旧集落、神社、里山、棚田などの文化的資源・自然資源も息づいており、様々な散策ルートが生まれる可能性がある。

### ◆箕面キャンパスの景観上の位置づけ

箕面キャンパスの校舎群は丘の上に位置するため、常に周辺地域の景観の「骨格」をつくりあげてきた。校舎や緑地のデザインの検討には、大きな社会的責任を伴う。

周辺地域の景観の中でのメモラビリティ（良い印象が残りやすいこと）に対する配慮も必要である。



粟生間谷から畑越しに 街路のアイストップとして 彩都西駅から

### ◆住宅地拡張への対応



公共施設の拡充が追いつかず広がる住宅地。箕面キャンパスを街の核として位置づけることにより、公共スペースの充実に貢献することができる。

### ◆間谷地区に育まれた「環境資源」の尊重

間谷地区はかつての新興住宅地であるが、地域コミュニティの中で、維持管理への協力を通して、街路や緑などの環境資源が大切に育てられてきている。



生垣による街路の個性化 市民に育てられる花壇

### ◆キャンパスと地域の接点の改善



閉鎖されたままの西門：門の開放と同時に、向かいの児童公園との一体的な整備の可能性も検討できる。



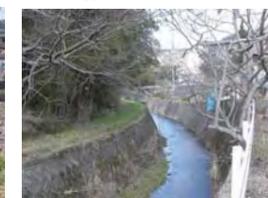
間谷西公園の美しい木立

- ←---→ 地区内指向の街路ネットワーク
- ←→ 地区を越える街路ネットワーク
- 河川ならびに沿道の緑地
- 間谷地区ならびに旧集落
- 彩都地区

### ◆既存のネットワークとの連結



集落の細い通路



橋は水路の景観との接点

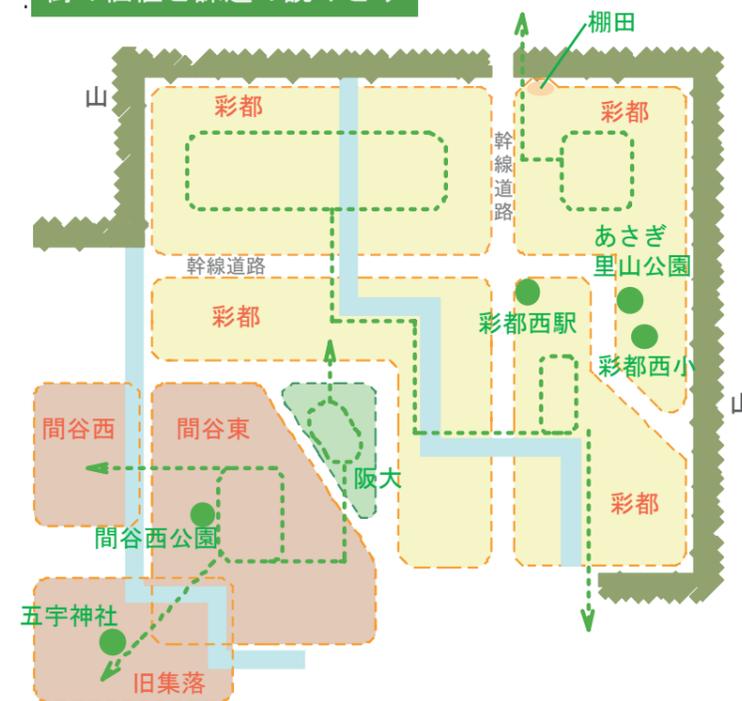


五宇神社



2本の樹木が集落のゲート

### 街の価値と課題の読みとり

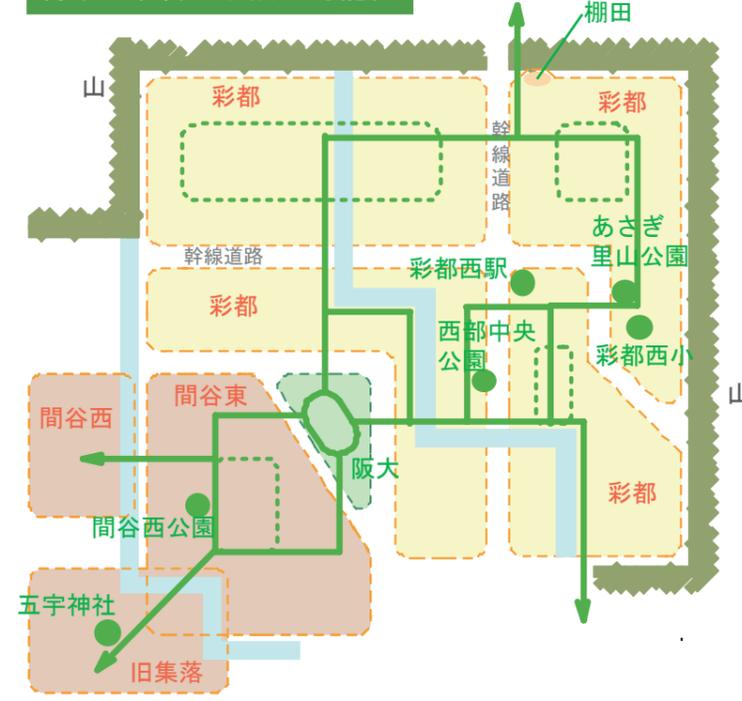


### ◆街が変化しながらも、旧集落に継承される記憶



昔の小屋組が残る屋敷 門が付け替えられた屋敷 いまも堰板の残る水路

### 将来の改善・成熟の可能性



### ◆山間部に蓄積される記憶



棚田は周辺のコミュニティと新しい住民と結びつけるフィールドとして期待される。

### ◆彩都に生まれつつある環境資源



子どもやグループでにぎわうあさぎ里山公園

### ◆新しい街の課題



幹線道路と法面により地区どうしのつながりが断絶されている

### ◆歩行者ネットワークの成熟の可能性



住宅と街路の関係性の改善



学校と公園の連結の可能性

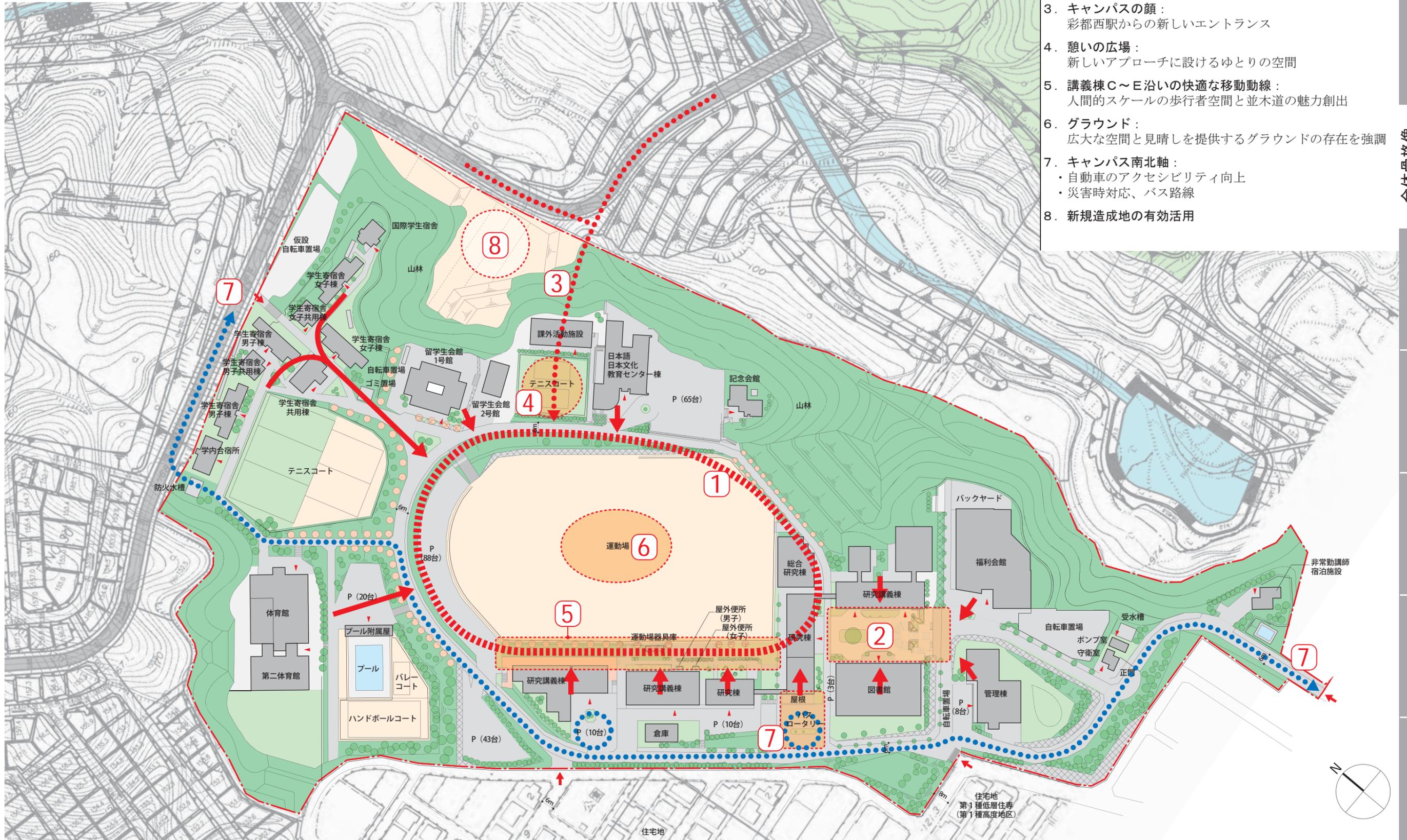


幹線道路では、横断の多い部分の改良が必要。

### 3章 将来の全体空間骨格像

#### 3-1. 将来の全体空間骨格像

2章の調査結果を元にして、キャンパスがもつ潜在的なポテンシャルを最大限に活かしながら現状の課題を補正してゆくために、キャンパスの骨格となる全体空間のビジョンを図の通り明確にしておく。



1. 交流軸  
本キャンパスの特長の一つであるグラウンドを中心とした周回路は、魅力的な回遊動線として、かつイメージの核としてキャンパスをひとつに結びつける役割をはたす。これを「キャンパスループ」と名付ける。
2. 交流広場：  
校舎に囲まれたキャンパスのイメージ中心
3. キャンパスの顔：  
彩都西駅からの新しいエントランス
4. 憩いの広場：  
新しいアプローチに設けるゆとりの空間
5. 講義棟C～E沿いの快適な移動動線：  
人間的スケールの歩行者空間と並木道の魅力創出
6. グラウンド：  
広大な空間と見晴しを提供するグラウンドの存在を強調
7. キャンパス南北軸：  
・自動車のアクセシビリティ向上  
・災害時対応、バス路線
8. 新規造成地の有効活用

## 4章 リーディングプロジェクト

### 4-1. リーディングプロジェクトの設定と全体配置

大阪大学キャンパスマスタープランにおいて、リーディングプロジェクトとは、オープンスペースや門、あるいは主要な街路といった重要な共用空間整備を、優先度の高い計画対象として全学的に位置づけることにより、魅力的なキャンパスの実現を図る手法である。

箕面キャンパスにおいては、2章の伸ばすべき個性と問題点の分析、およびこれらから導かれた3章の骨格像を元に、この骨格像を実現するものとして以下の6項目のリーディングプロジェクトを提案するものである。



#### 現状問題点の分析（2章で得られた問題点まとめ再掲）

1. 日常の主要動線に急な階段がある（通称：墓石階段）
  2. 車両入構口が南側の1ヶ所しかない
    - ・災害時車両入構、およびバス転回の問題
  3. 北門（現況）周辺の整備方針が中途半端
    - ・バリアフリー上の問題がある。大学の顔として貧相
    - ・砂利敷きの駐輪場（暫定利用）はタイヤを取られ危険
    - ・寮のプライバシー確保の上で問題がある
  4. 北門から彩都西駅への動線が遠回り
    - ・彩都西駅や西部中央公園との動線つながりが悪い
    - ・東側造成地の利用方針が明確になっていない
  5. 裏道のような通路が日常の主要な動線になっている
    - ・せっかくのグラウンドの広がりを活かせていない
  6. バス待ちスペースの不足
    - ・混雑時は行列がテントからはみ出す。雨天時は傘行列
    - ・バスの待機スペースも不足している
- （以上、リーディングプロジェクトの大項目番号と対応）

#### ■その他

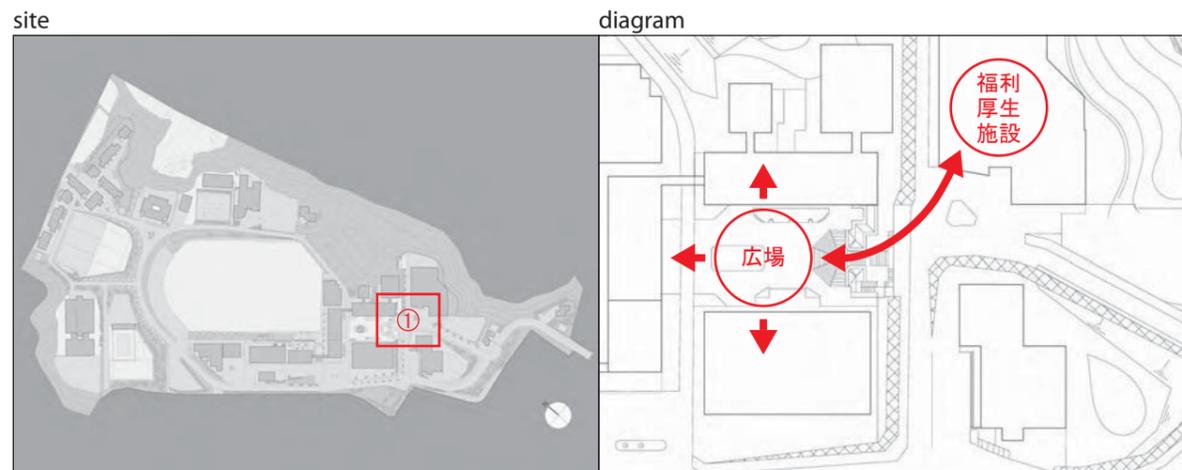
- ・魅力的なオープンスペースに乏しい
- ・学生の集う広場が少ない
- ・通学経路の多様化への対応が必要
- ・盗難などセキュリティ上の不安がある
- ・施設や屋外空間の維持管理が不十分

#### リーディングプロジェクト

- ① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化
  - ①-1. ブリッジの設置
  - ①-2. エレベータの設置
- ② 新北門の整備
  - ②-1. 新北門の整備
  - ②-2. 道路の拡幅、歩道の設置
  - ②-3. 防火水槽の移設（または埋設）

なお既存北門はバリアフリー上の問題があるので寮周辺へのアクセス用として限定的に用いる考え。また新北門は車両入構の意図が強く、歩行者用門としては④新東門が望ましいと考えられる。
- ③ 北側12m道路周辺整備
  - ③-1. リザーブ用地を兼ねたポケットパーク
  - ③-2. 北側12m道路沿いの並木・植栽による修景
- ④ 新東門・東側造成地・課外施設付近の整備
  - ④-1. 東側造成地の有効活用
  - ④-2. 新東門の整備
  - ④-3. エレベータの整備
  - ④-4. 課外活動施設（既存）の1階をピロティ・通路とする改修
  - ④-5. 課外活動施設（既存）前の広場を充実させる
- ⑤ 研究棟講義棟東側通路のブルームナード化・グラウンドを囲むグリーンスケープ
  - ⑤-1. 各所のバリアフリー化
  - ⑤-2. ブルームナードの修景整備
  - ⑤-3. グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・テント屋根
  - ⑤-4. グラウンドの芝生化ならびにそれを囲む緑を魅力的なグリーンスケープに整備
  - ⑤-5. 研究棟B棟1階のオープンスペース化（ピロティとして整備）
- ⑥ バス停周辺の整備
  - ⑥-1. 既存バスロータリーの拡張（北側へ拡張）
    - ※ バス待ちスペースの屋根拡張は、別途迅速に対処する。
  - ⑥-2. バス用サブロータリーの整備（研究講義棟 E棟西側）

◆ 4-1-①. 福利厚生棟周辺のバリアフリー化



◇ 現状の課題

① 通称「墓石階段」と呼ばれている扇状の大きな階段は、その象徴的な位置と形状から箕面キャンパスのシンボルとして広く認識されているが、高低差約5mの段差は移動の際には少なからず障害となっている。講義棟に囲まれた広場と学生食堂などが入る福利厚生施設の間という、キャンパス内で最も通行の多い経路に位置しているにもかかわらず、バリアフリー対策もなされておらず、風雨を避ける屋根もないため、現状はキャンパスの利便性を損ねていると言わざるを得ない。また動線上の課題が広場と福利厚生施設との心理的な距離を広げ、それぞれの場所のアクティビティを分断する結果にもなっている。

◇ 計画の方針

①ブリッジの設置

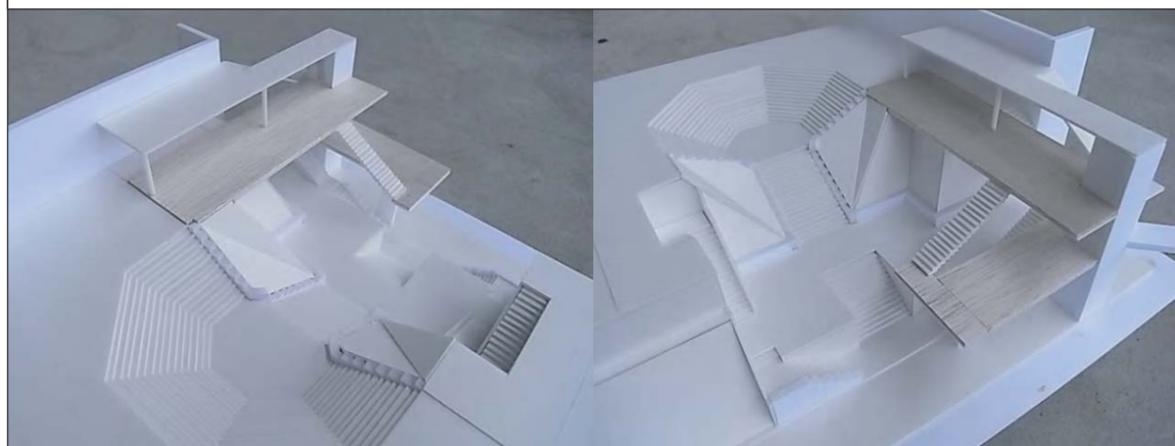
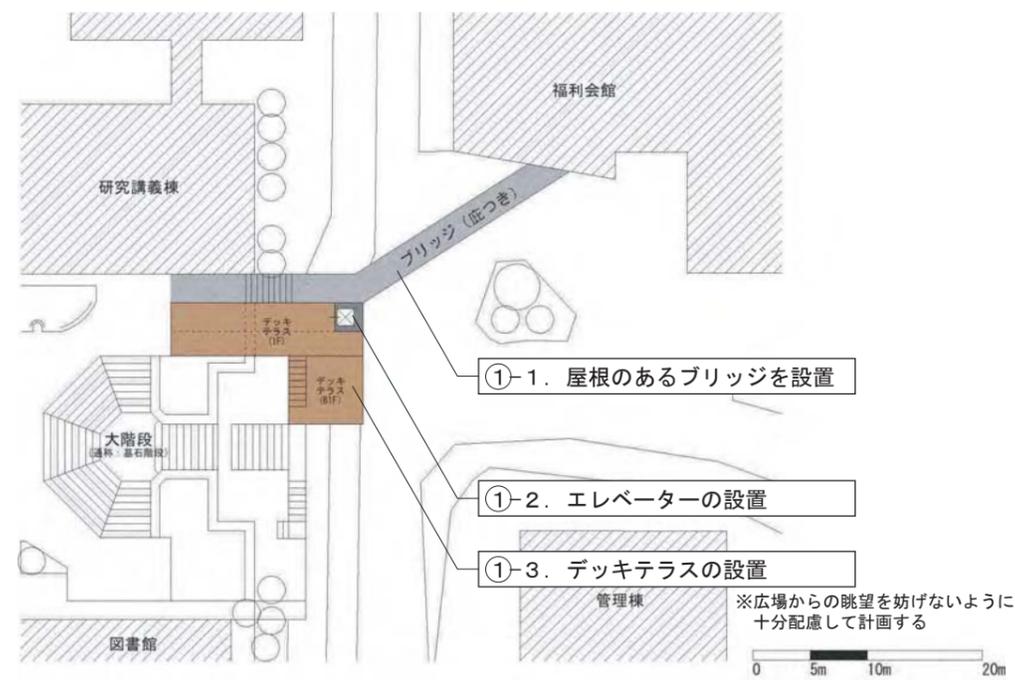
広場と福利厚生施設の2階部分をつなぐブリッジを設置し、高低差を減じて日常的な移動のストレスを軽減する。また屋根付きとすることで、雨天時にも雨に濡れずに講義棟と福利厚生施設との間を移動できるようにする。

・エレベーターの設置

大階段（通称：墓石階段）とブリッジのバリアフリー対策として、エレベーターを設置する。

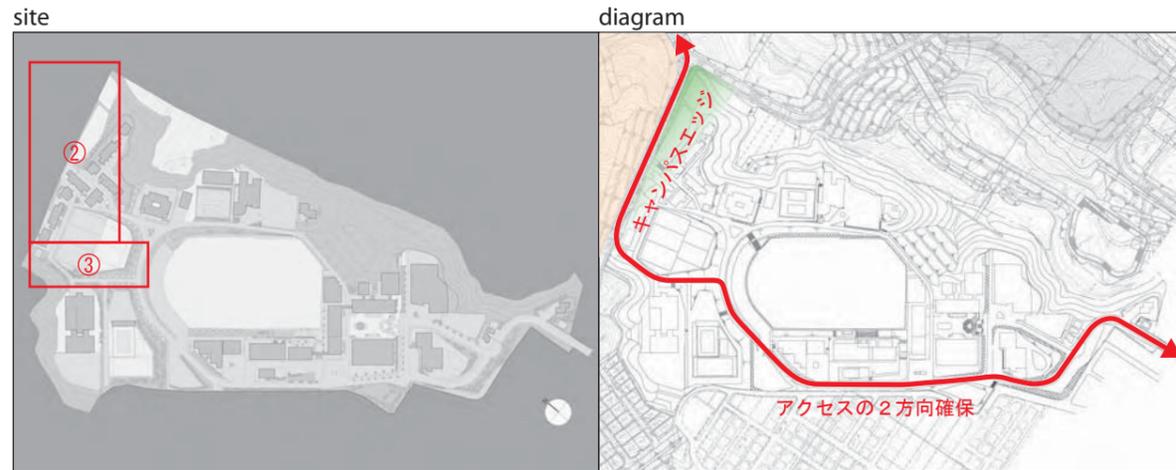
・デッキテラスの設置

上記整備に付随してデッキテラスを設置することで、動線のみならず広場と福利厚生施設のアクティビティの一体化をはかる。



◆ 4-1-②. 新北門の整備

◆ 4-1-③. 北側12m道路周辺整備



◇ 現状の課題

- ② 現在、キャンパスへの車両の入構はキャンパス南側の正門に限定されているが、彩都地区の開発と道路整備に伴い、今後は彩都方面など、キャンパス北側からの車両入構に対する要求の高まることが予想される。また、キャンパスへのアクセサビリティ向上の一環として、北側からのバスルートも検討されなければならない。更に災害などの緊急時を考慮すれば、車両入構口は2つ以上確保することが望ましい。
- ③ また、キャンパス北側では12m道路と集合住宅用地・戸建て分譲用地の工事が進み、完成すれば周辺地域は新しい居住エリアが形成され、道路を隔てた集合住宅とはレベル差があるものの、集合住宅開発者に対して分譲元のUR都市再生機構は1階の店舗化を想定している。これに対して現状のキャンパスの北側は砂利敷きの仮設駐輪場と寄宿舍の裏側が面しており、今後周辺の整備にあわせて良好なキャンパスエッジを形成し、近隣の環境向上に寄与することが求められる。

◇ 計画の方針

- ② 道路と最も高低差の少ない場所、現在防火水槽の設置されているエリアに新しく北門を整備し、バスと歩行者が通行可能なように、グラウンドを回る幹線道路へ至る道路を拡幅して歩道を整備し、これに伴い防火水槽は埋設型に更新するなどの移設を図る。
- ③ 現在仮設駐輪場となっている部分は近隣の快適性・景観の向上に寄与するポケットパークとして整備し、将来的な開発用地として確保する。また、寄宿舍に沿ったエリアは寄宿生のプライバシーに配慮しながら、街路樹などの植栽によって良好な景観を近隣に提供する。さらに大阪大学として、12m道路のデザインや分譲地の境界部分（法面が多い）のデザインについても積極的に発信をしていく必要がある。



◆ 4-1-④. 新東門・東側造成地・課外活動施設付近の整備



◇ 現状の課題

④ 現状では、彩都西駅からのアクセスには北門が利用されているが、彩都に対するキャンパスの顔としては規模が小さく、バリアフリー対策もなされていない上に、寄宿舍の間を歩いていくルートはプライバシー上も課題が多い。今後、箕面キャンパスとしては、新しく生まれる彩都に面した、新しい顔としてのゲート整備が必要である。その際、彩都の開発によってキャンパス東側の山林に生まれた造成地の有効な活用、西部中央公園とのネットワークなども考慮に入れて考えなければならない。

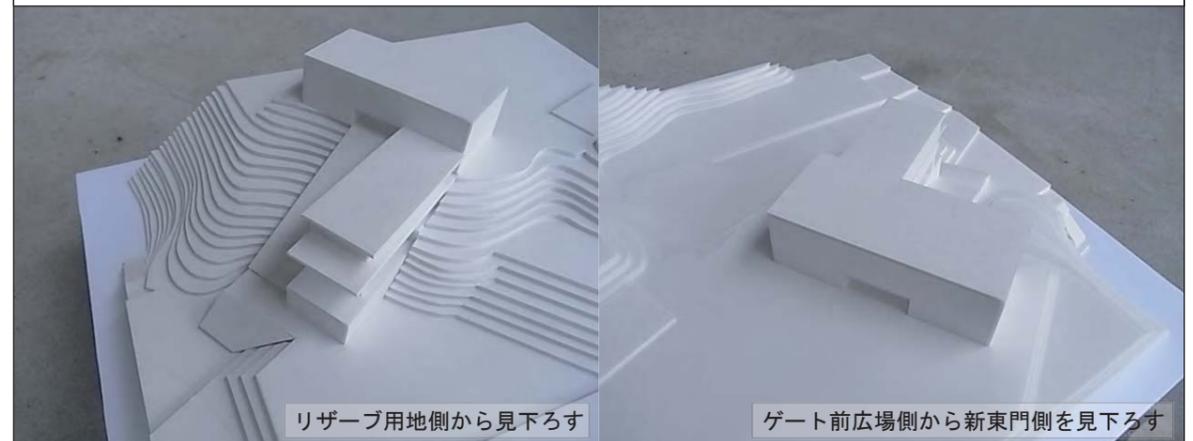
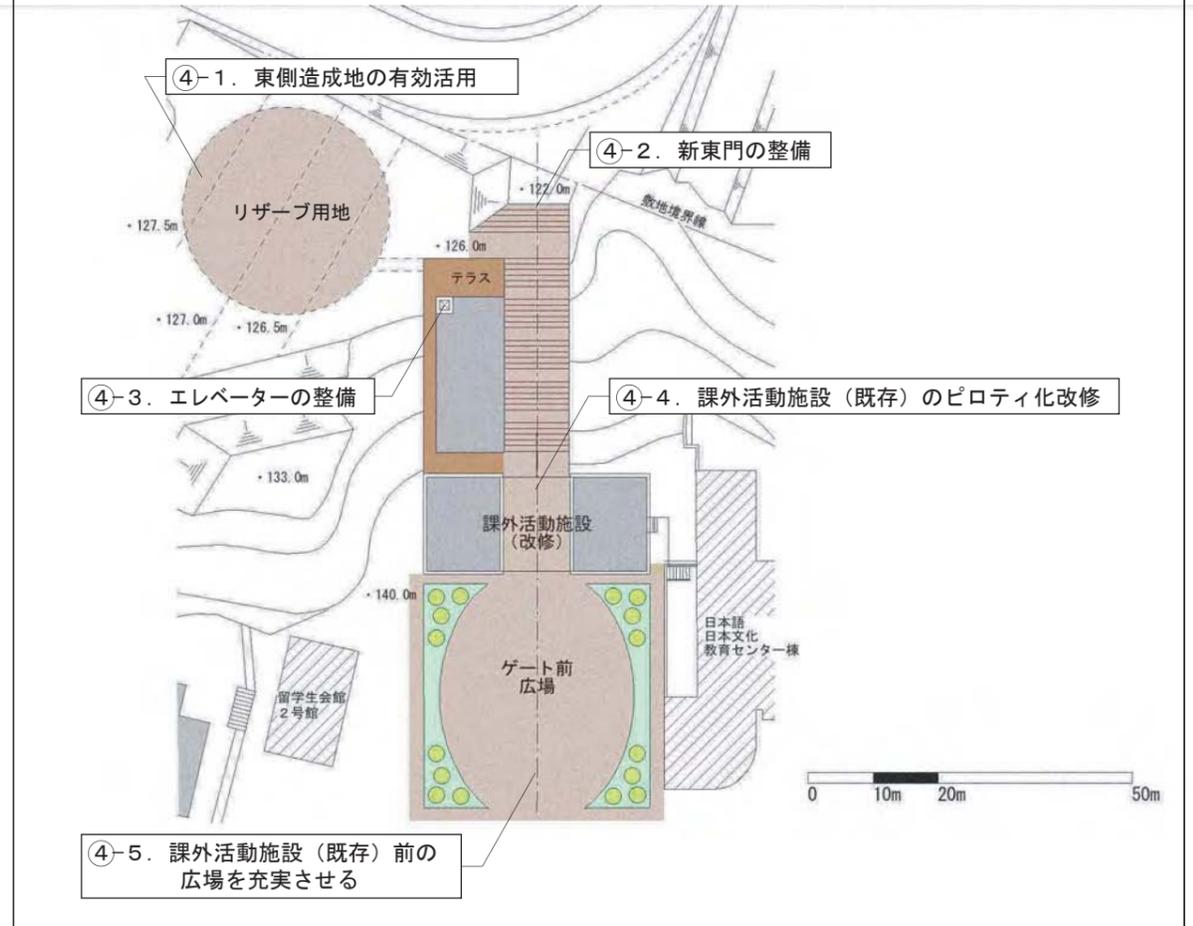
また、現状のキャンパスは学生が集い憩うことのできるオープンスペースが少なく、場所もキャンパス南側に偏っている。今後はグラウンドを一周する周回動線をキャンパスループとしてシンボル軸に位置づけ、全体にバランスよくオープンスペースを配置することが重要である。

◇ 計画の方針

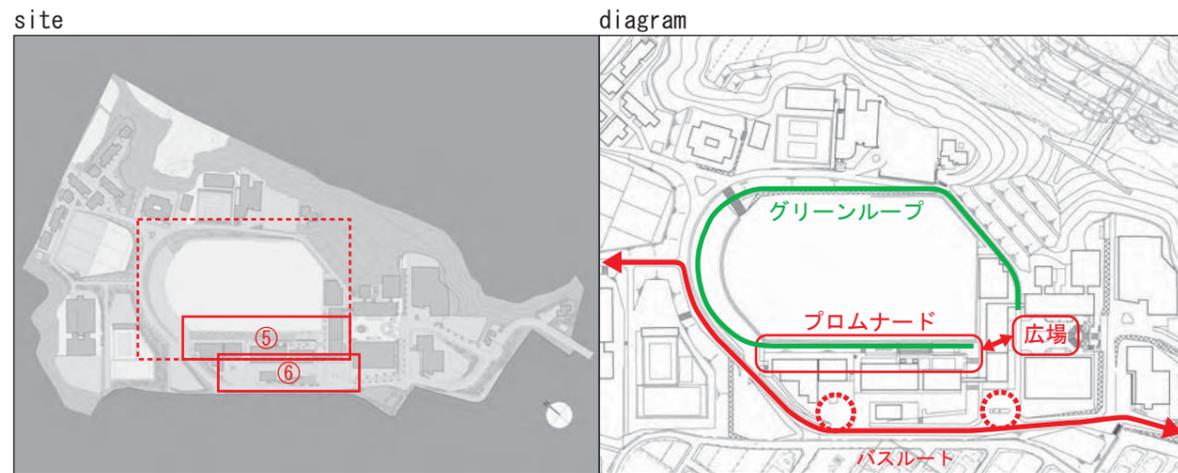
④ 彩都に面した箕面キャンパスの新しい顔として、緑豊かな山林の間を抜けてキャンパスへ至る新東門を計画する。場所は彩都西駅から西部中央公園に沿ってキャンパス東側へと至る道路からなめらかにつながる位置に設け、象徴的な階段とエレベーターによってキャンパスへアプローチし、課外活動施設とテニスコートを貫くかたちでキャンパスループへと接続させる。

このような配置とすることで西部中央公園とのネットワーク形成や造成地の将来的な有効活用を可能とし、現在テニスコートとなっているエリアを開放されたオープンスペースとして整備して広場を充実させ、周回動線との緩衝帯とする。また既存の課外活動施設については、一部をピロティとして改修するなど周辺整備と一体化した利活用を検討する。

さらに彩都西駅までのルートに関しても、空間を豊かにしながら防犯・安全を高める提案を可能な限り行っていくことが重要である。



- ◆ 4-1-⑤. 研究講義棟東側通路のプロムナード化・グラウンドを囲むグリーンスケープ
- ◆ 4-1-⑥. バス停周辺の整備



◇ 現状の課題

⑤ グラウンド西側と研究講義棟に挟まれたエリアは、校舎を背にして大きく広がる優れた景観を有した場所であるにもかかわらず、現状は植栽はあるもののどちらかといえば単なる機能上の通行路としか認識されていない。さらにこのエリアを通して体育館などへ移動する際、多くの学生や教職員は広場からB棟の裏口を抜けるルートを利用しており、頻繁に使われる主動線であるにもかかわらず魅力に欠けたものとなっている。

また、このエリアを含むキャンパスループ上には街路樹などが連続して緑のループを形成しており、魅力的な整備によってキャンパス全体をつなぐ緑のループとして、キャンパスの景観とイメージの向上に大きく寄与する潜在力を秘めているといえる。

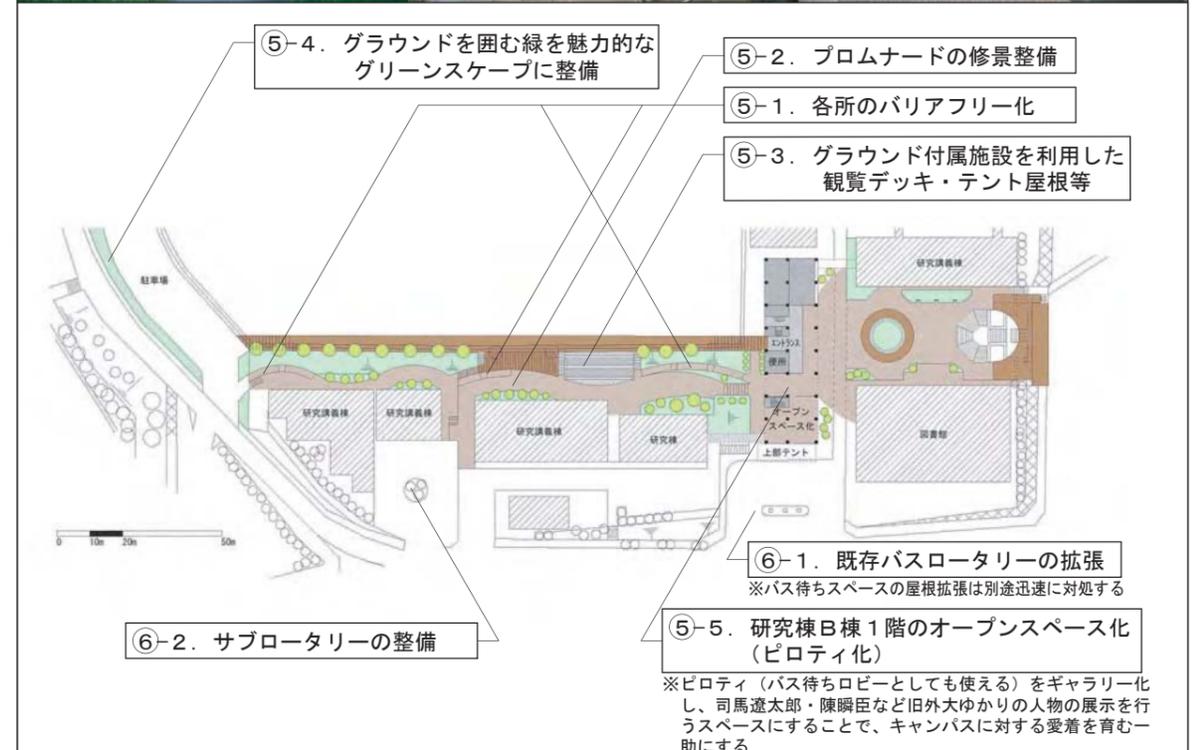
⑥ 今後バスの本数やルートの増加によって、バスの滞留スペースが不足すると共に新たな転回スペースが必要となることが予想される。

◇ 計画の方針

⑤ 段差を活かした回遊性のある散策路としてプロムナードを整備し、バリアフリー対策のスロープも一体的に計画して変化に富んだ景観を形成する。その際、既存のグラウンド付属施設なども計画に取り込み、屋上を観覧デッキとして活用するなどしてエリア一帯を総合的に整備していく。また、B棟1階部分を耐震性などに配慮しながら外壁を撤去してピロティとして改修し、広場やプロムナードと一体的なオープンスペースとして整備して、キャンパスループの連続性と全体のアメニティ向上をはかる。

さらに、グラウンドの芝生化を検討するほか、キャンパスループに沿った緑地帯は国際色豊かな樹種を採用するなど、キャンパスの個性に相応しいグリーンループとして一体的に整備を進めていく。

⑥ 既存バスロータリー部分はその範囲を拡張し、E棟前の車寄せ部分を転回スペースとなるサブロータリーとして整備する。



## 4-2. リーディングプロジェクトの優先順位の考え方

リーディングプロジェクトについては、その優先順位が問題となる。  
表および下記の7つの評価項目にそれぞれ重み付けを与え、加重平均をとって合計点を比較してみた。

### <評価項目>

- 1) バリアフリー（車椅子）対応
- 2) アクセサビリティ（人や車両通行の利便性）
- 3) キャンパス骨格への寄与（景観面を除く）
- 4) キャンパス外部への寄与
- 5) 空間の広がり・開放感（景観面を除く）
- 6) 景観（場所の重要性を含む）
- 7) コスト

まず重み付け方針として、1) を最優先にし、次いで7) コスト、2) アクセサビリティ、その他の順で重視した。

なお各項目は極力独立性を保つように評価・設定した。

### ケーススタディ 1.

ワーキングメンバーの全体的な感覚による優先順位に近くなるように、また全体に極力素直な方針で各重み付けを与えた。その結果表の通り、感覚的な評価にほぼ近い重み付けと各項目評価を得た。

### ケーススタディ 2.

キャンパスの骨格やキャンパス外部への寄与をもより重視するという観点から重み付けおよび順位づけをさぐった。コストの増大をやや許容する方向性で調整し、右表下部の結果を得た。

これらの検討の結果を以下に考察する。

#### A. 重要性の高い4項目

①福利会館周辺、②北門・新北門、④新東門、⑤研究棟東側、の4項目は評価項目の設定次第で順位が入れ替るが、どれも有力である。

#### B. 重要性がやや低い2項目

③北側道路沿い、⑥バス停周辺整備は、評価項目の重み付けを多少変えても、全体に占める順位はあまり高くない。

整備に至る最終的な優先順位づけは、そのときどきの財務状況その他に左右されると考えられ、また上記検討における若干の順位変動は有意ではないと思われるので、ここではあくまで参考として示しておく。

CaseStudy-1.

評価項目 (極力独立した項目とみなし、 相互影響が少ないように評価した)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	重み 合計	優先 順位	備考	参考: WGメンバーの全体的な 感覚による評価		
	バリア フリー (車いす 対応)	アクセサ ビリティ (通行 利便)	キャンパス 骨格への 寄与 (景観除く)	キャンパス 外部への 寄与	空間の 広がり ・開放感 (景観除く)	景観 (場所の 重要性 を含む)	コスト				必要性	順位	備考
<b>評価項目の重み付け</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>E</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	<b>A</b>	3.01					
重み率:各項目の重み付けを全項目の重み合計で割ったもの	0.33	0.25	0.17	0.00	0.17	0.08	0.33	1.00					
リーディングプロジェクト案の項目	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	総合 点					
① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化・広場の整備・ブリッジの設置	平均A	平均A	平均C	平均C	平均D	平均C	B	0.70	2			○	⑤と関連有り
・LDP1-1 ブリッジの設置	B	A	C	C	D	C						○	2
・LDP1-2 エレベーターの設置	A	B	C	C	C	C						○	
② 北門・新北門周辺計画(駐輪場・バスルートとの関係性・問題点整理含む)	平均C	平均B	平均B	平均B	平均C	平均B	A	0.67	4			○	③と関連有り
・LDP2-1 新北門の整備	C	A	B	B	C	B						○	3
・LDP2-2 道路拡幅、歩道の設置(キャンパス内・新北門周辺)	B	B	A	B	B	B						○	
・LDP2-3 防火水槽の移設(埋設)	C	C	C	C	C	B						○	
③ 北側12m道路周辺整備	平均C	平均B	平均B	平均A	平均B	平均B	A	0.59	6			△	②と関連有り
・LDP3-1 リザーブ用地を兼ねたポケットパーク	C	B	B	A	B	B						△	5
・LDP3-2 北側、12m道路沿いの並木・植栽による修景	C	C	C	A	C	B						△	
④ 新東門付近の整備	平均C	平均B	平均B	平均B	平均B	平均B	E	0.68	3			○	④と関連有り
・LDP4-1 東側造成地の有効活用(駐輪場・駐車場・その他リザーブ用地)	C	C	B	B	B	C						○	4
・LDP4-2 新東門の整備	C	A	A	A	C	B						△	
・LDP4-3 エレベーターの整備	A	B	C	C	C	C						△	
・LDP4-4 広場を充実させる(現テニスコート部分)	C	B	A	C	B	B						x	
・LDP4-5 課外活動施設(既存)ピロティ化改修と新東口・新広場との連続性	C	B	B	C	B	B						△	
⑤ 研究講義棟東面(グラウンド西面)通路プロムナード化	平均B	平均B	平均C	平均C	平均B	平均B	B	0.71	1			○	①と関連有り
・LDP5-1 各所バリアフリー化	B	B	B	C	C	C						○	1
・LDP5-2 プロムナードの修景整備	C	C	B	C	B	A						△	
・LDP5-3 グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・上部テント屋根整備	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-4 研究棟B棟1階のオープンスペース化(ピロティとして整備)	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-5 図書館前広場から連続するアプローチの整備	B	A	C	C	A	B						x	
⑥ バス停周辺の整備(待ちスペースの屋根拡張は、別途早急に対応)	平均B	平均B	平均C	平均B	平均C	平均C	A	0.60	5			△	②③と関連有
・LDP6-1 既存バスロータリーの拡張(北側へ拡張)	B	B	C	B	C	C						△	6
・LDP6-2 サブロータリーの整備(研究講義棟E棟西側)	C	B	C	B	C	C						△	

CaseStudy-2. (「骨格への寄与」と「外部への寄与」を重視し、「コスト」をやや甘くした場合)

評価項目 (極力独立した項目とみなし、 相互影響が少ないように評価した)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	重み 合計	優先 順位	備考	参考: WGメンバーの全体的な 感覚による評価		
	バリア フリー (車いす 対応)	アクセサ ビリティ (通行 利便)	キャンパス 骨格への 寄与 (景観除く)	キャンパス 外部への 寄与	空間の 広がり ・開放感 (景観除く)	景観 (場所の 重要性 を含む)	コスト				必要性	順位	備考
<b>評価項目の重み付け</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	<b>C</b>	3.75					
重み率:各項目の重み付けを全項目の重み合計で割ったもの	0.27	0.20	0.20	0.13	0.13	0.07	0.13	1.00					
リーディングプロジェクト案の項目	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	総合 点					
① 福利厚生棟周辺のバリアフリー化・広場の整備・ブリッジの設置	平均A	平均A	平均C	平均C	平均D	平均C	B	0.66	4			○	⑤と関連有り
・LDP1-1 ブリッジの設置	B	A	C	C	D	C						○	2
・LDP1-2 エレベーターの設置	A	B	C	C	C	C						○	
② 北門・新北門周辺計画(駐輪場・バスルートとの関係性・問題点整理含む)	平均C	平均B	平均B	平均B	平均C	平均B	A	0.67	3			○	③と関連有り
・LDP2-1 新北門の整備	C	A	B	B	C	B						○	3
・LDP2-2 道路拡幅、歩道の設置	B	B	A	B	B	B						○	
・LDP2-3 防火水槽の移設(埋設)	C	C	C	C	C	B						○	
③ 北側12m道路周辺整備	平均C	平均B	平均B	平均A	平均B	平均B	A	0.65	5			△	②と関連有り
・LDP3-1 リザーブ用地を兼ねたポケットパーク	C	B	B	A	B	B						△	5
・LDP3-2 北側、12m道路沿いの並木・植栽による修景	C	C	C	A	C	B						△	
④ 新東門付近の整備	平均C	平均B	平均B	平均B	平均B	平均B	E	0.69	1			○	④と関連有り
・LDP4-1 東側造成地の有効活用(駐輪場・駐車場・その他リザーブ用地)	C	C	B	B	B	C						○	4
・LDP4-2 新東門の整備	C	A	A	A	C	B						△	
・LDP4-3 エレベーターの整備	A	B	C	C	C	C						△	
・LDP4-4 広場を充実させる(現テニスコート部分)	C	B	A	C	B	B						x	
・LDP4-5 課外活動施設(既存)ピロティ化改修と新東口・新広場との連続性	C	B	B	C	B	B						△	
⑤ 研究講義棟東面(グラウンド西面)通路プロムナード化	平均B	平均B	平均C	平均C	平均B	平均B	B	0.67	2			○	①と関連有り
・LDP5-1 各所バリアフリー化	B	B	B	C	C	C						○	1
・LDP5-2 プロムナードの修景整備	C	C	B	C	B	A						△	
・LDP5-3 グラウンド付属施設を利用した観覧デッキ・上部テント屋根整備	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-4 研究棟B棟1階のオープンスペース化(ピロティとして整備)	B	B	C	C	B	B						x	
・LDP5-5 図書館前広場から連続するアプローチの整備	B	A	C	C	A	B						x	
⑥ バス停周辺の整備(待ちスペースの屋根拡張は、別途早急に対応)	平均B	平均B	平均C	平均B	平均C	平均C	A	0.62	6			△	②③と関連有
・LDP6-1 既存バスロータリーの拡張(北側へ拡張)	B	B	C	B	C	C						△	6
・LDP6-2 サブロータリーの整備(研究講義棟E棟西側)	C	B	C	B	C	C						△	

## 5章 デザインガイドライン

### 5-1. 建物のデザインガイドライン

#### ◆ 5-1-1. 2005年版（豊中・吹田が主対象）の考え方と箕面地区における考え方

建物の新築・改修に際しては、次の諸点を考慮する。①～⑨は「大阪大学キャンパスマスタープラン（2005）」を参照し、⑧は「バリアフリー・サインのフレームワークプラン（2007）」を参照する。⑩～⑫は、箕面キャンパス独自の立地環境に対応するために加筆する内容である。

##### ①オープンスペースとの連続性

キャンパスの骨格や交流軸に面する建物は、外部空間に対して「開かれた」デザインとする。

##### ②景観の文脈の尊重

周辺建物群の形態、空間構成、外装材などの基調となるデザインを分析し、同調・対比などの関係性をデザインに取り入れる。

##### ③図となる建物

交流施設や福利施設など公共性の高い建物は、個性的なデザインを指向する。

##### ④地となる建物

一般的な研究棟や講義棟は、キャンパスや部局の基調となる形態・外装材・色彩などを尊重する。

##### ⑤リニューアルの成果の表現

建物の改善・改造は、古い部分と新しい部分を「両立」させたデザインとし、歴史性を表現する。

##### ⑥共通スペース・交流スペースの充実

##### ⑦長く実効的に使用できる配慮

汚れにくく維持管理しやすい材料・構法・デザインを採用するとともに、フレキシビリティを確保する。

##### ⑧ユニバーサルデザイン

##### ⑨防犯性への配慮

防犯設備に頼るだけでなく、開かれた空間、見守りのある空間を指向する。

<以下は箕面キャンパス独自の立地環境に対応するために加筆する内容>

##### ⑩眺望や山並みの風景の尊重

##### ⑪周辺住宅地への配慮

##### ⑫北側「12m道路」における街路空間形成

箕面キャンパスにおいて特に重要な①、⑩、⑪について、以下に詳述する。

#### ◆ 5-1-2. オープンスペースとの連続性

◇透明性： エントランスや主要開口部から建物内の様子や活動がうかがい知れるよう、オープンスペースに向けて開放的な計画とする。学内関係者や来訪者が、「キャンパスループ」（3章で定義）を歩きながら、外国語学部の各専攻語や活動の多様性を認識できるような環境を目指す。

◇コモンスペース： 建物低層部に談話・展示スペースなどの共用スペースを設け、活動の「表現」の場を充実させていく。

◇アプローチ空間： 街路や広場に緊密に接することにより、街路や広場の「都市性」やにぎわいを演出したり、アプローチに小広場や植栽を設けて出会いや交流の場を充実させることも考えられる。

◇「エントランス性」： サインの表示に頼らなくとも、庇、小広場、玄関などの形態により、エントランスの位置が認識できるデザインとする。

#### ◆ 5-1-3. 眺望や山並みの風景の尊重

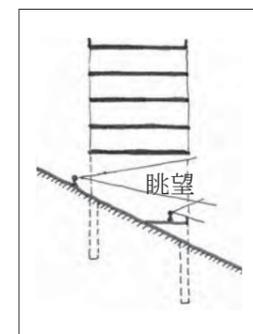
外部空間や施設の屋上から遙かに見下ろす市街地や雄大な山並み、キャンパス内の各地でみられるこれらの魅力的な眺望は、箕面キャンパスに固有の重要な環境資源といえる。これらの風景を継承していくために、次の点に配慮する。

◇視線軸上の建築・工作物建設の制限： 特に重要な「キャンパスループ」の北西部分からの運動場越しの市街地方向の眺望、中庭（図書館前）から図書館と研究棟の間に展望される市街地の風景は、地形と建物群のシルエットが「共同」でつくりあげる象徴的な風景であり、これらの視線軸上への建築や工作物の築造を避けるように検討する。

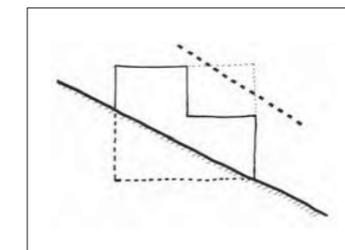
◇眺望の活用： 建物内部、特に、談話コーナーやロビーなどの共用部に眺望を「取り入れた」計画を行う。既存施設についても、高層階や屋上を開放し、安全性に配慮した展望スペースに活用することも考えられる。

◇地形への配慮： 極力地形を改変せず、擁壁をつくらない計画とする。地形や植生などの特性を考慮しながら、地形への「埋め込み型」とするか、「地形保全型」とするかを判断する。

「地形保全型」：  
建物を地形から持ち上げて、低層部に視線の抜けを確保する。



「埋め込み型」：  
敷地の傾斜に合わせて建物をセットバック、一部を地下化する。



#### ◆ 5-1-4. 周辺住宅地への配慮

キャンパスの周囲には住宅地が隣接しており、景観、交通動線などについて配慮する。

◇建物ボリュームの配慮： 住宅地に近接する場所に建物を建てる場合、住宅地に対して圧迫感を与えないよう、十分に高さを抑えた計画とする。

◇緩衝帯の配慮： 自動車や学生・教職員の通行が集中する場所は、植栽帯を住宅地側に設けるなどして、騒音や振動が緩和されるように配慮する。

◇動線上の配慮： 新たに動線や出入り口を設ける場合、周辺地域の街路や緑のネットワークに配慮し、連結するべきか、連結を避けるべきかなど、周辺の文脈に応じた対応をしていく。

## 5-2. オープンスペースのデザインガイドライン

### ◆ 5-2-1. 2005年版（豊中・吹田が主対象）の考え方と箕面地区との関係

オープンスペースの整備・改善に際しては、次の点を考慮する。①～⑦は「大阪大学キャンパスマスタープラン（2005）」を参照し、さらに④は「緑のフレームワークプラン（2007）」、⑤は「バリアフリー・サインのフレームワークプラン（2007）」を参照する。⑧・⑨は、箕面キャンパス固有の立地や空間性に対応するために加筆する内容である。⑩は、豊中・吹田・箕面の3キャンパスのために、共通して加筆するものである（従来は③の中に入れていたが、重要な項目なので、独立した項目とする）。

#### ①キャンパスの骨格への配慮

オープンスペースのネットワークの連結性を維持・再生するようなデザイン

#### ②広場のデザイン

交流の場、シンボルの広場など、役割に対応したデザインが求められる。例えば、交流の場とするために、植栽は地上部の見通しのよいかたち、地面は歩行感のよい舗装や芝生とし、見通しや歩行のしやすさを高めるデザインとする。

#### ③街路のデザイン

交流の軸、シンボルとしての街路、散策を楽しむ街路など、役割に応じた総合的な環境デザインが求められる。交流の軸とするためには、建物と街路の親密な関係（視線の透過性、アクセサビリティ）を確保することが必要であり、シンボルとするためには、アイストップや眺望との関係や「個性化」（後述）にも配慮する。

#### ④維持・管理に配慮した植栽の計画

#### ⑤ユニバーサルデザイン

#### ⑥ストリートファニチャー

サイン、ベンチ、照明、自転車置き場、ゴミ箱、ゴミ置場、バス停屋根、渡り廊下屋根などについて、優れたデザインの導入と統一を図る。

#### ⑦駐輪場の計画

#### ⑧地形に配慮したデザイン

#### ⑨眺望に配慮したデザイン

#### ⑩街路の個性化

箕面キャンパスにおいて特に重要な①、⑧、⑨、⑩について、以下に詳述する。

### ◆ 5-2-2. 地形に配慮したデザイン

傾斜地に立地する箕面キャンパスでは、段差や傾斜の「処理」がオープンスペースの整備では重要な課題となる。「バリアフリー」に配慮しながら、段差や傾斜をランドスケープとして活かし、変化に富んだ魅力的な風景を育てていく。



建物とオープンスペースの開かれた関係



建物に囲まれたオープンスペース



デザインされたストリートファニチャーの事例(1)



デザインされたストリートファニチャーの事例(2)

◇擁壁の修景： 規模の大小にかかわらず外部空間の工事を行う際は、その都度、既存の擁壁の修景を進めていく。壁面緑化のほか、階段やテラスなどの付加、法面の植生の再生など、様々な手段の検討を行う。

◇地形の継承： 擁壁を極力避けるよう努力する。擁壁が必要な場合は最小限とし、緑化技術の導入などもはかる。「スロープを組み込んだ造成」や「階段状の公園」など、総合的な環境を考慮したデザインを検討する。



建物壁面とサインの組み合わせ

### ◆ 5-2-3. 眺望に配慮したデザイン

「背後に眺望を臨めるシーンの連続」、これが旧外大時代から継承されてきた最も重要な魅力である。外部空間の整備に当たり、以下の点を検討する。

◇広場・街路との関係： 眺望へ視線を導くような動線のデザイン、眺望を背景にした広場のデザインなど、空間の開き方と眺望との関係に配慮する。

#### ◇眺望の活用

街並みや山並みを展望できる憩いのスペースなど、眺望を活用したデザインを検討する。



眺望を活かしたオープンスペースの事例

### ◆ 5-2-4. 街路毎の個性化

「キャンパスループ」とそこから放射状に伸びる街路のネットワークは、キャンパスと地域の骨格をつくるものであり、それぞれに個性を持たせていくことが、環境全体としての魅力やわかりやすさにつながっていく。街路の整備・改修・補修の際には、その都度次の点を考慮する。

◇統一性への配慮： キャンパスの個性を形成しうる街路、緑道などについて、それに面する建物のデザイン、街路樹の種類や樹形、路面の仕上げにある程度の統一感・調和感を与えていくことが有効である。

◇「キャンパスループ」： 「キャンパスループ」は、外国語学部の教育・研究活動を表出する場でもある。サインやストリートファニチャーなど、比較的小さな景観要素には、華やかなデザインを採用し、各専攻語・センターの個性を街路に向けて表現していくことも検討する。



鮮やかな色彩を使ったサインシステム



内照式屋外サインの事例



太陽光発電とLEDを組み合わせた照明

### 5-3. 緑のデザインガイドラインについて

2007年3月に策定された緑のフレームワークプラン（以下GFWP）では、下記の緑地分類がなされた（<>内はキャンパスマスタープラン2005年版による分類）  
 箕面キャンパスデザインガイドラインにおいても、概ねこれを踏襲するが、③庭園系<観賞系>の定義はややあてはまりにくい。

- ① 広場系<交流系・散策系（下草緑地）>
- ② 街路系
- ③ 庭園系<観賞系>
- ④ 保全系<準自然系>

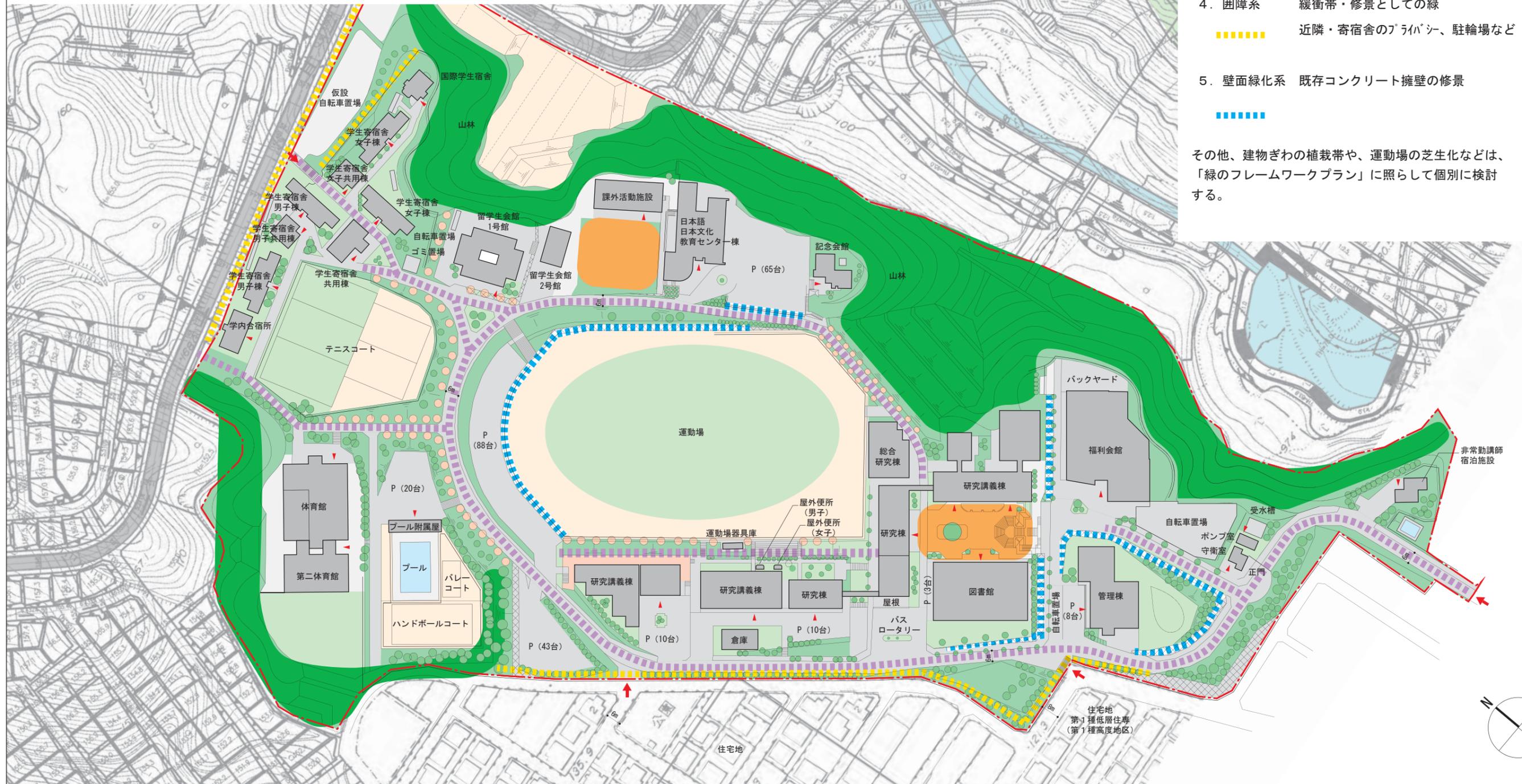
一方、GFWPに定義されていない箕面キャンパスに特徴的な要素として、近隣に対する緩衝・修景の緑地および擁壁などの壁面緑化をみることができる。ここでは箕面地区での独自分類として右記凡例の分類により緑地の構造をとらえなおし、緑地・オープンスペース整備の基本方針として示す。



#### 緑のデザインガイドライン凡例

- 1. 広場系 ● 憩いの場・集いの場としての緑  
木陰、シンボルツリー、芝生など
- 2. 街路系 ■ 連続する並木の調和、魅力ある街路形成  
交流軸、プロムナード、桜並木など
- 3. 保全系 ● 地域の貴重な自然資源  
山林、雑木林
- 4. 団障系 ■ 緩衝帯・修景としての緑  
近隣・寄宿舍のプライバシー、駐輪場など
- 5. 壁面緑化系 ■ 既存コンクリート擁壁の修景

その他、建物ぎわの植栽帯や、運動場の芝生化などは、「緑のフレームワークプラン」に照らして個別に検討する。



## 6章 アクションプラン (ソフトウェア的手法のメニュー)

### 6-1. 2005年版(豊中・吹田が主対象)で示されたメニュー

本マスタープランにおけるアクションプランとは、施設整備に直接的に関係しないソフトウェア的しくみによって、キャンパスの維持管理機能および快適性や周辺環境を保つ一助とするためのメニュー提案で

#### ◆ 6-1-1. 大学が主として行うアクションプラン

従来からの施設マネジメントであるが、その場限りの対策を行うのではなく、中長期を見据えた先見性のある施策と統合的かつ柔軟な運営が求められる。

#### ◆ 6-1-2. サポート型(参加・提案型)アクションプラン

学生や教職員などの活動による、大学組織が直接的に関わらない学内NGO的なマネジメントの形態。大学としてこれらを支援していくことで、費用対効果の高い維持管理機能を期待できるとともに、大学運営への参加意識と大学に対する誇り・愛着を高める効果や、学内・地域コミュニティの醸成効果を期待することができる。また学生、教職員の参加によるデザイン検討や自発的なマネジメント提案があればそれを支援するなど、継続的に意見を汲み上げてゆくしくみが求められる。

#### ◆ 6-1-3. 地域、社会、産業と連携していくためのアクションプラン

サテライトキャンパス、インターンシップ、ベンチャーインキュベーションを展開しながら、地域への様々な働きかけや施設開放、地域からの提案やキャンパス計画への参画などの相互交流をはかりながら取り組んでゆくべき課題である。行政との協働や、都市計画においてキャンパスの役割を位置づけることも考えられる。

以上、2005年版マスタープランより抜粋

### 6-2. 箕面地区(主に旧大阪外国語大学時代)での経緯と実績

#### ◆ 箕面地区における特徴的な活動 … 夏祭りをはじめとする地域との交流活動

統合前には毎年7月上旬の土曜日に夏祭りを開催し、フリーマーケットや盆踊りを実施して、これには付近住民の参加も盛んであった。しかし、統合により外国語学部だけでは祭りをサポートしきれなくなったため、2009年度の開催目処は立っていない。

この活動は箕面地区における学生の、交流を重視する姿勢、企画運営する自主性をよく示している。

2章でも述べたようにアンケート結果の中でも、このような交流活動についての記述が多く見られ、その意義と期待が示された。様々なアクションプランの素地となりうる活動であり、今後大学としてのサポートを改めて検討してゆく必要がある。

#### ◆ 2005年版マスタープランで示された項目と類似する項目についての実績

##### ◇ レンタサイクル制度

- ・統合前に、不要となった電動アシスト自転車を利用して、レンタサイクル利用を行っていたことがある。

##### ◇ ユーザー参加型点検評価

- ・学生生活室等に寄せられて来たクレームや希望を、学生生活室等で審議し、改善する等の対応を行っていたことがある。

##### ◇ キャンパスレンジャー

- ・学生・教職員が参加し、構内の除草及び清掃を月1回程度実施していたことがある。

##### ◇ 大学のシンボルの形成 … アンケート結果にもあったとおり、中心としてのイメージの形成に十分な実績を上げている。

- ・大ケヤキ、墓石階段(昭和53年)
- ・大阪外国語大学記念会館(昭和58年)
- ・研究講義棟E棟アトリウムの世界地図レリーフ(平成6年)
- ・日本語日本文化教育センター棟の塔時計
- ・世界時計、正門(平成11年)

##### ◇ キャンパスマップ整備

- ・構内配置図は統合時に整備されたが、ハザードマップ等の整備はされていない。
- ・旧外大時代に、生協においては、構内の四季の写真を絵はがきにして販売していた。
- ・統合後外国語学部オリジナル商品の販売を生協が行っている。

##### ◇ コミュニティガーデン … リザーブ用地を緩衝緑地帯として整備し付近住民への配慮を図っている。

##### ◇ リサイクルクラブ … 生協において紙製弁当箱を使用し、リサイクルを行っている。

6-3. 箕面地区におけるアクションプランの提案

以上をふまえたアクションプランの一覧を、2005年度版でのメニューも含めて下表に示す。  
 今後サポート型の重要性がより高まるものと考えられるが、これを活性化するためには、例えば清掃活動に有償ボランティア・アルバイトとしての支出ができるなどのしくみの整備が有効と考えられる。



アクションプラン一覧表

箕面地区において特記される項目	アクションプランの性格分け (○ … 結びつきが強い △ … やや結びつきあり)			2005年版マスタープランにおける解説	阪大全体のなかで2005年以降に状況が変わった事項 ( )内は付帯状況	これまでの箕面キャンパス (旧外大)での実績・経緯	今後、箕面地区においてより強く 望まれる追加的提案事項		
	大学が主として行う アクションプラン	サポート型 (参加・提案型) アクションプラン	地域・社会・産業と 連携してゆくための アクションプラン						
地域と連携・交流したイベント活動	△	○	△	-	-	×	統合前には毎年7月上旬の土曜日に夏祭りを開催し、フリーマーケットや盆踊りを実施して、これには付近住民の参加も盛んであった。しかし、統合により外国語学部だけでは祭りをサポートしきれなくなったため、2009年度の開催目処は立っていない。	様々なアクションプランの素地となりうる活動であり、今後大学としてのサポートを改めて検討してゆく必要がある。	
キャンパス内イベント利用・飾付けの許可制度	△	○	△	-	-	-	(交流広場(中庭)での飾付け・イベント使用の要望がある。)	管理体制を明確にしてゆく必要があると思われる。	
地域の清掃・美化活動への参加	△	○	○	-	-	-	-	活動を大学としてサポートしてゆく姿勢が求められる。イベントや有償ボランティアと関連させて企画してゆく必要がある。	
防犯パトロール活動	△	○	○	-	-	-	-	同上	
コミュニティバス	○		△	現在キャンパスの空地の至る所が駐車場と化している状況は誰しも好まないと認識しているわけではない。コミュニティバスはキャンパス内と最寄り駅を循環するもので、パークアンドライド方式などの入構規制の導入とともに検討の時期にきている。	○ (スクールバスが運行されている。ダイヤや便数の問題など、改善の余地はあるものの、良く稼働している。)	△	旧外大時代に千里山バスによる通勤通学の足として、バス路線のない経路からの運行を行っていたことがある。	引き続きダイヤや便数の改善を検討するとともに、新規ルート開拓の可能性も模索する。	
レンタサイクル制度	○	△	△	キャンパス内の自転車の数は豊中において既に歩行者空間を埋め尽くすまでに至っている。本来、通勤の足としてキャンパス内の移動手段として、最適な乗り物であるはずのものが、その量の多さと駐輪スペースの少なさから問題となっている。レンタサイクル制度の導入によって必要な場所に必要だけの自転車を利用できるようその循環のシステムを考案して配置し、キャンパス内における自転車の総量を規制する。	-	△	(豊中キャンパスにおいては阪大坂の自転車進入規制が(賛否はあるものの)キャンパス内の駐輪減少と事故減少には大きく寄与した。)	旧外大時代に不要となった電動アシスト自転車を利用して、レンタサイクルの利用を行っていたことがある。	
ユーザー参加型点検評価	△	○		学生や教員が普段利用する研究棟内を定期的に点検するキャンパスパトロールや点検評価チェックシート、利用者アンケートによるデータを公開することで定期的に改善提案を汲み上げ、リニューアルにつなげてゆくことが重要である。	△	△	施設マネジメント委員会・施設部により、各部局への点検評価照会(アンケート形式)やキャラバンが行われている。	旧外大時代において、学生生活室等に寄せられて来たクレームや希望を、学生生活室等で審議し、改善する等の対応を行っていたことがある。	
キャンパスレンジャー		○	△	大学キャンパスはアンケートでも指摘されているように、維持管理が適切に行われているとはいえない状況である。これは単に環境美化に要する経費の問題だけではない。学生や教職員の環境美化に対する高い意識が必要である。キャンパスレンジャーは学生や教職員が有償ボランティアとして組織し、パトロール、屋外清掃、大学来訪者へのキャンパスツアー、キャンパス改善提案など幅広い活動を行うもので、自ら率先して環境美化を行うことで、参加者はもとより、その活動を見る者への啓蒙にもなり得ると考えられる。また大学側も積極的に支援することが望まれる。授業の課題として取り組むことも考えられる。	-	△	旧外大時代において、学生教職員が参加し、構内の除草及び清掃を月1回程度実施していたことがある。	有償ボランティア・アルバイトの形態をとることで、費用はかかるものの対効果の大きい成果が得られる可能性がある。ただし、留学生にあっては母国の文化により参加できない場合があり得る。そうしたときに不利を被らないような、自由を尊重する配慮が必要である。	
回遊散策路の構築と開放	○	△	△	施設の開放と防犯安全対策は矛盾しやすい条件である。学内の危険な場所に適切な対策を講じるとともに、日常の点検評価が重要である。コミュニティや人の目の存在もまた、物理的対策と両輪をなすものである。	-	-	特になし		
アート・インスタレーションイベント	△	○	○	オープンキャンパスや大学祭に合わせて実施し、キャンパスを地域に開放する。また地域の芸術家の協力を求めるとともに、先ではビエンナーレ形式で優秀な若手芸術家を表彰する場を提供する。	-	-	-		
大学シンボルの形成	○	△		アンケートによれば現在のキャンパスには阪大をイメージできるような施設や場所が乏しく、シンボルになるものを望む声も多く見られる。それには単に施設を建設するのではなく、適塾や懐徳堂、湯川記念室など阪大にゆかりのある資源を如何に活用するかが重要である。とりわけ大学の歴史や伝統的資源を集約し、広報していくことが望まれる。	-	○	・大ケヤキ、墓石階段(s.53年) ・大阪外国語大学記念会館(s.58年) ・E棟アトリウム世界地図レリーフ(h.6年) ・日本語日本文化教育センター棟時計塔 ・世界時計、正門(h.11年)	中庭周辺は十分な効果を奏している。今後デザインガイドライン運用によるさらなるイメージ強化が有効と考えられる。また上述のイベントともあわせ、学生の自主性を支援するしくみを探り入れることを考えてたい。司馬遼太郎や陳隣臣などゆかりのある人物にちなんだ展示やイベントも有効と考えられる。	
キャンパスマップ整備	○	○	△	生態系マップ、アートマップ、ハザードマップ等の整備や絵葉書の作成、販売等を通して大学の現状を把握し、広報に繋げる。	△	△	ハザードマップ等の整備はされていない。旧外大時代に生協では構内の四季の写真を絵はがきにして販売していた。統合後外国語学部オリジナル商品の販売を生協が行っている。	特に彩都地区側に対して広報の充実が必要である。	
里山学校	△	△		キャンパスの自然豊かな特性を生かし、動植物や農林業に詳しい地域住民や学生、教職員らのボランティアを募り、キャンパス内を広く市民学習の場として開放し、イベント等を支援する。	-	-	特になし	緑のフレームワークプランの整理加筆修正、および里山保全プログラムにより、イベントと連動したより実効的なしくみの確立が必要。	
コミュニティガーデン		△	○	リザーブ用地や荒れている既存の植栽部分などを学内外の有志にレンタル・アドプトすることで美しい庭園を再生させる。	-	△	西側リザーブ用地を緩衝緑地帯として整備し、付近住民への配慮を図っている。アドプトまではしていない。		
リサイクルクラブ	△	○		大学生協や環境資源委員会の支援、ISO14000sの導入、フリーマーケット、バザー等のイベント支援など	△	△	生協において紙製弁当箱を使用し、リサイクルを行っている。		
学内生態系保全醸成プログラム	○	○	△	火を使って良いルール、木を切って良いルール、剪定のルールの策定、植栽計画コード、里山形成プログラム、営育成の可能性検討などが考えられる。	△	-	(プログラムの取り組みは無いが、彩都が開発されるまでは、カブトムシ等の昆虫の生息が多く見られた。)	緑のフレームワークプランの整理加筆修正、および里山保全プログラムにより、イベントと連動したより実効的なしくみの確立が必要。(近年、牛や山羊の放牧による除草が、国内外で注目をあつめている。グランド等広い面積の芝生(他、地被類)化と合わせてシンボル形成に寄与できる可能性もある。)	

## 7章 今後の課題

「はじめに」で示したとおり、本マスタープラン（2008年度版）は、大学全体としての箕面キャンパスの活用方針の設定を保留としたままで作成したものである。

本章ではこれらの本マスタープランの上位にあたる事項との関係を中心に、今後の検討課題についてその要点を整理しておく。

### 7-1. 全学的長期方針の中での箕面キャンパスの位置づけとの整合

全学のコンセプトとしては「グラウンドプラン」があるが、箕面キャンパスのマスタープランをより有効かつ具体性あるものとする為には、グラウンドプランよりも一段具体化された、箕面キャンパスとして下記7-1-1.～7-1-3.のような大きな方針の設定が望まれる。

#### ◆ 7-1-1. 統合のエネルギーを活用するための箕面キャンパスの中長期の方向性との整合性

全学の中の位置づけとして、箕面キャンパスにどのような役割を期待していくのか。この位置づけによっては、骨格像の設定やリーディングプロジェクトの考え方が大きく変わることがあり得るので、その際には再検討が必要になる可能性がある。

#### ◆ 7-1-2. 箕面キャンパスの特色づけの方針との整合性

例：地域に開かれたキャンパス、語学教育を特色としたキャンパスなど

箕面キャンパスに対するアイデンティティ付与の方針の如何によっても、マスタープランの再検討が必要になる可能性がある。

#### ◆ 7-1-3. 将来構想の中で箕面キャンパスに設置・誘致・移転する施設や部局など

これらがあるとすれば、将来に備えた保留地等の確保等、マスタープランの修正が必要となる。

### 7-2. 教育カリキュラム等の諸課題との整合

#### ◆ 7-2-1. 現存施設の運用に関する方針との整合

下記のような方針について新たな方向性が示された場合は、マスタープランについても再検討が必要となる。

7-2-1-1. 共通教育と専門教育の箕面地区における運用方針と、関連する建物の使用方針

7-2-1-2. 空き教室など建物の使用方針と部局再配置

7-2-1-3. 体育系の施設の使用方針（授業や各部活動拠点）や統廃合方針

#### ◆ 7-2-2. 公共交通に関する検討の反映

アンケート調査のなかで、下記のようなバス・モノレールの利用希望の有無や希望運賃に関する設問を設けており、具体的な数値データが得られている。このため交通機関に対して具体的な交渉を行うことが可能であると考えられる。この検討・交渉によってもマスタープランを見直す必要が生じる可能性がある。

7-2-2-1. 新規バスルート（彩都西駅経由JR・阪急茨木方面）の開設可能性検討

7-2-2-2. モノレールの利便性（運行ダイヤ・割引制度など）の改善の検討

### 7-3. 緑のフレームワークプランについて

2007年に策定された緑のフレームワークプランでは、豊中・吹田地区について詳細な調査・分析がなされている。本マスタープランでは5-3. 緑のガイドラインで概略方針は示したが、各部の詳細な調査と方針設定までは出来ていない。また、今回の箕面キャンパスの調査によって、2007年版では想定していなかった面も見えてきた。

また一方で、キャンパス内の里山保全・維持管理に対する関心は年々強くなってきている。

そこで緑のフレームワークプランに関しては、今後、箕面キャンパスにおけるより詳細な調査と方針設定を行うとともに、当マスタープランの考え方と整合をとり、なおかつ実効性の高い維持管理をするための加筆修正を行ってゆく必要がある。

### 7-4. バリアフリー・サインのフレームワークプランについて

上記と同様に、バリアフリー・サインのフレームワークプラン（2008年3月策定）についても今後、箕面キャンパスについてのより詳細な調査および方針設定が必要である。